

(二百四十三)一八六六年、オリッサ一地方だけで百萬人以上の印度教徒が餓死した。それにも拘らず、英人等は、餓死しつゝある人々に生活資料を賣つた其價格を以て、印度の國庫を富まさんとしたのである。

土著人に對する待遇は、言ふ迄もなく、西印度の如きたゞ輸出貿易にのみ定められた植民地、並に墨哥其及び東印度の如き強盜殺人に委せられた富裕にして人口稠密なる國々に於て、最も兇暴を極めた。されど嚴密の植民地に於ても、本來的蓄積の基督教的性質は拒むべくもなかつた。かの新教主義の正氣の好事家たる新英蘭の清教徒等は、一七〇三年其評議會の決議に依て、印度人の頭蓋一個又は捕虜一人に對して四十磅の賞を懸け、一七二〇年には頭蓋一個に對して一百磅、一七四四年にはマサチューセツツ灣に於て或種族を叛徒と宣言したる後、左の如き賞を懸けた。——十二歳以上の男の頭蓋に對しては新通貨一百磅、男の捕虜に對しては一百五磅、女子供の捕虜に對しては五十磅、女子供の頭蓋に對しては五十磅——それから數十年後に及んで植民制度は、斯る間に騷擾的となつた敬虔なる清教徒の子孫等に對して復讐した。彼等は、英吉利の煽動と支拂との下に鉞殺された。英國

議會は殺戮と頭蓋取とを「神と自然が其手に授けた手段」と宣言したのである。

植民制度は、貿易と航海とを温室的に成熟せしめた。「獨占會社」(ルーテル)は資本集積の強大なる槓杆であつた。植民地は當時發芽し始めたマニユファクチュリーアに對して、販路と販路獨占到依つて強められた一蓄積とを確保した。歐羅巴外に於て直接、劫掠、奴隸化、強盜殺人等に依り獲得したる財寶は、母國に流れ來たり其處で資本に轉化した。始めて植民制度を充分に展開したる和蘭は、一六四八年に於て既に其商業的偉大の燒點に達してゐた。同國は「東印度貿易と、歐洲に於ける南西部及び北東部間の交易とを殆んど獨占してゐた。其漁業と、海運とマニユファクチュリーアとは、他の總ての國の其れを凌駕してゐた。和蘭共和國の總資本は、恐らく他の歐洲諸國全體の富よりも著大であつたらう。」ギューリヒは之れに尙左の一事を附加へることを忘れてゐる。曰く、和蘭の衆民は一六四八年に於て既に、他の歐洲諸國全體の衆民に比べて、より過勞し、より貧窮であり、而してより殘虐に壓迫されてゐたのである。

今日では、工業上の至上權は商業上の至上權を伴ふが、嚴密なるマニユファクチ

「ア期に於ては、反對に商業上の至上權が工業上の優越を與へる。當時植民制度が優絶なる役目を演じたのは蓋し之れが爲である。歐羅巴の古き神々と並んで祭壇に座を占め、一日、彼等を一撃一蹴の下に悉く打ち崩してしまつたものは、『異教の神』であつた。彼れは貨殖を、人類の究竟唯一の目的なりと宣明したのである。

公信用換言すれば國債の制度——其起源は既に中世紀中ジェノア及ヴェニスに於て發見される所の——は、マニユファクチュア期中に全歐洲を掌握した。植民制度並に其海上貿易及商業戰は、此制度の爲に温室として役立つた。斯くて此制度は先づ、和蘭に根を下ろしたのである。國債換言すれば國家——專制國たると、立憲國たると、共和國たるとを問はず——の讓渡は、資本制時代に對し其極印を押捺する者である。所謂國民的富のうち、實際近世人民の總所有中に入る唯一の部分は、即ち其國債である(二百四十三)。かくて之れが必然の結論として、一國民は債務を負ふこと甚だしきに従ひ益々富裕たるに至るて、近世の教義が生じたのである。公信用は資本の信條となる。而して國債の成立と共に、赦免の道なき、聖

靈に對する罪に代つて、國債に就ての背信が現はれて來るのである。

(二百四十三) ウォリアム・コベットは曰く、英吉利に於ては總ての公立營造物は『王立的』と稱せられるが、其場合として『國民的』債務(國債)が存してゐたと。

公債は本來的蓄積の最強槓杆の一となる。其れは魔杖を振つてする如く、不埒の貨幣に生殖力を附與して之れを資本に轉化する。而も此際貨幣は、産業上は勿論高利貸業上の貨幣使用からも不可分なる、煩勞と危険とに遭遇するを要しないのである。國債所有者は事實上何物も與へぬことになる。なぜならば、貸した金額は、容易に他に移轉し得べき公債證書——それが同額の硬貨である場合と全く同様、彼等の手中に於て引續き作用する所の——に轉化するからである。だが又斯くして造り出さるゝ懶惰なる年金受領者階級と、政府對國民間に立つて仲介者たる役を盡す金融業者——並に各箇の國債中の可なりの部分に依つて、天から降つて來た一資本たる奉仕を受くる收稅請負人や、商人や、私的製造業者など——の即製的富は暫く措き、國債は、株式會社や、有らゆる種類の有價證券の賣買や、エーデオターヂュ(⑥)等、一言すれば株式投機と近世銀行間とを生ぜしめた。

國民的名義を以て裝飾された大銀行は、其成立の當初より、政府側に立ち自己の受けた特権のお蔭で政府に貨幣を前貸するを得た私的投機者等の會社に外ならなかつた。されば、國債の蓄積に對しては、斯る銀行——其完全なる開展は、一六九四年に於ける英蘭銀行設立以後始まつた所の——の株式の絶え間なき昂騰以上に確實なる分度器はないのである。英蘭銀行は、政府に八分利で貨幣を貸附くることを以て其仕事を始めた。同時に此銀行は、右の資本を更らに銀行券の形で公衆に貸附くることに依つて、同資本より貨幣を鑄出するの權能を議會から授けられ、此銀行券で以て手形を割引し、商品を抵當に取り、貴金屬を買込むことを許された。應て此英蘭銀行自身の製造せる信用貨幣は、同銀行が依つて國家に貸附をなし、國家の計算に於て公債の利子を支拂へる鑄貨となつた。一方の手で與へ他方の手でより多くを受け戻すと云ふことだけでは、同銀行に取つてまだ充分でなかつた。一方に受け戻しつゝ、同銀行は前貸せる最後の一錢に對してまで國民の永久的債權者たるを失はなかつたのである。此銀行は次第に英國の退藏金屬の避け難き容器となり、有らゆる商業上の信用の重力中心となつた。魔女を焚殺する

ことが英吉利に於て廢された其同じ頃に、銀行券の價造者を絞殺することが行はれ始めたのである。銀行閥、金融業者、年金受領者、仲買人、投機師、株式取引人等の斯る一團の勃興が、同時代の人心に如何なる影響を及ぼしたかは、當時に於ける諸々の著書文章、例へばポリングブロークの其れが之れを證明してゐる(二百四十三頁)。

(二百四十三頁)『今日難題人等が歐羅巴に憂つたとした場合、歐羅巴に於ける金融業者とは如何なるものなるかを彼等に會得せしむるには、可なりの勢力を要するであらう』(モンテスキュー著『法の精神』倫敦版、一七六九年刊、第四卷、第三三頁)。

國債の發生と共に、一の國際的信用制度が成立した。此制度は屢々、或は此の國民或は彼の國民に於ける本來的蓄積の源泉を包藏するものである。かくてヴェニスに於ける盜掠制度の諸々の悪行は、壊滅に瀕せるヴェニスから巨額の貨幣を借り入れた和蘭の資本富に對する、斯くの如き隠れたる一基礎を成すものである。和蘭と英吉利との間に於ても同様であつた。既に十八世の初葉、和蘭のマニユファクチュアは遙かに凌駕されてしまひ、同國はもはや優越なる商工國ではなくなつた。かくて莫大なる資本を、殊に其強大なる競争者英吉利に貸出すこと

は、一七〇一年より一七七六年にかけての和蘭に於ける主業の一となつた。同様の関係は今日、英吉利と合衆國との間にも成立してゐる。今日、出生證書なくして合衆國に現はれてゐる少年の多きは、昨日迄はまた資本化せる兒童の血として英吉利内に存在してゐたものである。

國債は、利子その他に就ての年々の支拂を補ふべき國庫收入を其支柱とするが故に、近世租税制度は國債制度の必要なる補充となつた。政府は國債に依り、納税者をして即時之れを感知せしむることなくして、臨時費を支出し得るに至るものであるが、然し結局國債は増税を已むなからしむるものである。他方に於て、次から次へと契約される負債の累積に基く増税は、政府をして新たな臨時費に對し常に新たな公債を募集するを餘儀なからしめる。されば、最必要生活資料に對する租税（隨つて斯る生活資料の價格騰貴）を其樞軸とする近世の國家財政は、其れ自身の裡に自動的昂進の胚種を包藏してゐるのである。重税は偶然の一事件ではなく、寧ろ一の原則である。故に此制度を始めて採用せる和蘭に於ては、偉大なる愛國者ド・ウキットは其金言中に之れを嘆美して、賃銀労働者等を從順、節儉、勤

勉ならしめ、又……過度労働せしむべき最良の制度だと云つた。だが、此制度が賃銀労働者の状態に及ぼす破壊的影響は、此場合我々に取つて、此制度に基く小農民、手工業者、略言すれば小中等階級の有らゆる成分に對する強行的收奪ほどに重要なものではない。此後者に就ては、決して二箇の異説は——ブルジョア經濟學者の間にてさへ——無いのである。此制度の收奪的効力は、其本質的部分の一なる保護制度に依つて更らに強められる。

公債及び其れに應當せる國家財政制度が、富の資本化と衆民に對する收奪とに就て大なる役目を演ずると云ふ事實から、コベット、ダブルデーその他の如き數多著者は、失當にも此點に近代民の窮乏の根本原因を求むるに至つた。

保護制度は、製造業者を製造し、獨立労働者を收奪し、國民的生產機關並に生活資料を資本化し、又古代的生產方法から近代的生產方法への推移を強行的に短縮する所の、人爲的の手段であつた。歐洲諸國は此發明の特許を得んとして互に捲り合つた。そして一度は貨殖者等の下に奉仕し始むるや、彼等はもはや單に間接には保護税、直接には輸出恩賞等に依つて、此目的の爲に自國民を誅求せるのみでは

なかつた。例へば英蘭が愛蘭の羊毛マニユファクチュアに對して爲る如く、其屬領の産業をも、悉く強行的に根こぎにしてしまつたのである。歐洲大陸諸國に於ては、此行程はコアベットの先例に従つて極めて單純化された。之等諸國に於ては、工業家の本來的資本は、一部分は直接國庫から流れ來つたものである。ミラポーは叫んで曰く、『七年戦争前に於ける撤退國のマニユファクチュアの光輝の原因をば、何故かく遠き所に求めんとするか？一億八千萬の國債！』(二百四十四)と。

(二百四十四)前掲ミラポー著『普魯西君主國』倫敦、一七八八年刊、第六卷、第一〇一頁。

植民制度、國債、重税、保護制度、商業戦など——嚴密なるマニユファクチュア期の之等嫩芽は、大工業の幼少期中素晴らしく膨大するものである。大工業の誕生は、ヘロデ王的大仕掛な兒童掠奪に依つて祝される。英國海軍と同じく、工場は強募に依つて新兵を得た。サー・フレデリック・モルトン・インデンは、十五世紀七十年代より、彼れの時代たる十八世紀末にかけての、農民に對する土地收奪の恐ろしさに就て樂しみ疲れ、資本制農業を興し、『耕地と牧場地との間の正當なる比例』を立つるに『必要』なる此行程を、自己満足的に欣祝してゐるが、然し彼れはマニユフ

アクチュア經營を工場經營に轉化し資本と勞働力との間の眞關係を構立するに兒童掠奪及び兒童奴隷化の必要なることに就ては、右と同じ經濟的洞察を示して居らぬ。

彼れは曰く、『貧兒等の居住し勞役すべき小屋や作業場を強奪すべきこと、夜間の大部分彼等を交代に使用し、何人にも必要不可缺なりとは云へ、就中少年少女等に取つて必要な休息を彼等から奪ひ取り、様々の年齢及び性向の多數男女を一所に詰め込み爲に實例の傳染が放埒淫蕩を招致せざるを得ざるに至らしむべきこと——之等の事を其成功上必要とする何等かのマニユファクチュアが、果して個人的又は國民的福祉の總額を増大し得るや否やを考慮するは、蓋し公衆の注意に値する事柄であらう』(二百四十五)と。

(二百四十五)前掲インデン著『貧民の狀態』第二部、第一章、第四二一頁。

フキールデンは曰く、『ダービシア、ノッチンガムシア諸州及び殊にランカシア州に於て、水車を廻轉し得る河流に沿ふて設けられた大工場内に新たに發明された機械が使用された。幾千の職工が、都市より遠隔せる之等の地方に於て

突然要求された。就中、當時までは人口比較的稀薄にして不毛なりしランカシア州に於ては、人口は其現下要する一切であつた。幼き児童等の小さな敏活な指が就中最も要求されてゐたので、倫敦、バーミンガムその他に於ける種々なる教區勞役場から徒弟(丁)を得る習慣が忽ち生じた。かくて、七歳より十三乃至十四歳に至る之等幾千の頼りなき子供等は、北方へ輸送されたのである。自己の徒弟等に衣食を給し、彼等を工場附近の『徒弟小屋』に宿泊せしむるとは、主人〔換言すれば児童盗人〕の習慣であつた。徒弟等の勞働を監督すべき看視人等が任置された。児童等を精一杯働かしむることは、彼等の利益とする所であつた。なぜならば、彼等の受くる給料の額は、彼等が強搾し得る仕事の分量に比例する者であつたから。殘虐は其當然の結果であつた。……多くの工場地方、殊に恐らく予の屬する罪惡州〔ランカシア〕に於ては、斯様にして工場主に委せられた無辜の寄邊なき児童等に對して、酷い虐行が加へられた。彼等は勞働過度に依つて、死に瀕する迄苦しめられ、……此上なく精巧な殘酷を以て、鞭打たれ、梏束され、苛責された。……彼等は鞭打を以て勞役を強ひられつゝある間、大抵の場合骨の髓まで餓え抜いてし

まつた。……そして遂には、自殺を餘儀なくされた場合もある。……ダービシャー、ノッチンガムシャー及ランカシア州の人里離れた美しき浪漫的な露々は、苛責と屢々また殺人との物凄き寂地と化した。工場主等の利潤は莫大であつた。されど此は只、それに依つて満たさるべき筈であつた欲求を更らに刺戟したに過ぎぬのである。かくて工場主等は、無限に斯る利潤を確保するを得せしむる如く見ゆる一策に頼つた。即ち彼等は、「夜業」てふ事を實行し始めた。つまり一組の職工を終日働き疲らしめた後、引續き他の一組をして終夜勞役せしめるのである。かくして晝勤者は、夜勤者の去つた許りな寢床に入り、夜勤者は又晝勤者の去つた許りな寢床に入ると云ふ有様であつた。寢床の冷むる邊なきことは、ランカシア州に於ける一般の因習である(二百四十六)。

(二百四十六) 前掲ジョン・フキールデン著『工場制度の呪詛』倫敦、一八三六年刊第五及六頁。工場制度の本來的汚辱點に就ては、前掲ドクトル・ジョン・エーキン著『マンチエスタ―周圍三十乃至四十哩地方に就ての叙述』(倫敦、一七九五年刊、第二一九頁)及びトマス・ギスボルン著『人間の義務に就ての考究』(一七九五年刊、第二卷)を参照せよ。蒸氣機關は工場を田舎の水流から都市の中心に移植した故に、『節慾的』賃殖者は今や、勞役場か

らの強行的奴隷供給を受くる迄もなく、手近かに兒童材料を見出すことが出来る。——
サー・ロバート・ピール（『口巧者な大臣』の父）が、一八一五年、其兒童保護案を提出した時、
フランシス・ホーナー（正貨委員の光明にしてリカルドの親友）は下院に於て言明して
曰く、『一破産者の有價諸物件と共に、之等兒童の一隊——斯様な言葉を使用し得るとす
れば——が販賣に付せられ、財産の一部として大びらに廣告されたことは、評判の事實
である。二年前、極めて残酷なる一事件が英國高等法院刑事裁判廷に持ち出された。
それは、倫敦の一教區から或工場主に徒弟として送られ、更らに他の工場主に移轉され
た斯種の多數兒童に關する事件であつて、之等の兒童は、若干の慈悲者に依つて絶對的
餓死の境にあることを見出されたのであつた。今一つのより、恐ろしい事件が、議會委
員たる予の知る所となつた。それは即ち、健全なる兒童二十人毎に白癡者一人を込め
て買ふと云ふ條件を含んだ契約が、倫敦の一教區とランカシャー州に於ける工場主と
の間に、先年締結されたこと、是れである。

マニユファクチュア期中資本制生産の發達するにつれて、歐羅巴の輿論は既
に廉恥心と良心との最後の殘留を失つて了つてゐたのである。歐羅巴の諸國民
は資本蓄積の手段たる總ての汚辱事に就て皮肉に吹聴した。例へば立派な人
物アダム・アンダーソンの素朴な商業年記を讀め。彼れは其中で、英吉利が從來亞
弗利加と英領西印度との間にのみ行つてゐた奴隷貿易をば、爾後亞弗利加と英領

亞米利加との間にも、行ふを得てふ特權を、ウトレヒト講和談判の際アジエント條
約に依つて西班牙人から強取した事を、英國策の勝利として吹聴してゐる。英吉
利は、一七四三年に至るまで西領亞米利加に對して年々四千八百人の黒人を供給
する權利を取得した。之れは同時に、英吉利の密輸出入に對して官許的外套を供
したものである。リヴァプール市は奴隷貿易の基礎の上に繁榮した。奴隷貿易
は本來的蓄積に就ての同市固有の方法たるものである。而して今日に至るも尙
リヴァプールの『體面』は、『同市の貿易を特徴付け而して其れを急激に今日の
繁榮状態に齎らしたる、かの大膽な冒險心と一致し、航運業と海員とに莫大の従業
を與へ本邦諸工業に對する需要を非常に増大せしめたる』（一七九五年刊ドクト
ルエーキン前掲書參照）奴隷貿易に就てのペンダーの抒情詩人たる點に存してゐ
る。同市は奴隷貿易の爲め、一七三〇年には十五艘、一七五一年には五十三艘、一七
六〇年には七十四艘、一七七〇年には九十六艘、一七九二年には百三十二艘の船を
使用した。

木綿工業は英吉利に兒童奴隷制を實施せしめたが、同時に此工業は、従前多かれ

少なかれ父家長制的であつた、合衆國に於ける奴隸制度の商業的一搾取制度への轉化に對して刺戟を與へた。總じて歐羅巴に於ける賃銀労働者の隠蔽的奴隸制度は、亞米利加に於ける純粹の奴隸制度を其基礎に要したのである(二百四十七)。

(二百四十七)一七九〇年、英領西印度に於ては自由民一人に對して奴隸十人、佛領西印度に於ては自由民一人に對して奴隸十四人、蘭領西印度に於ては自由民一人に對して奴隸二十三人の割合であつた。(ヘンリー・ブルーム著『歐洲諸列強の植民政策に就ての一考察』エヂンバラ、一八〇三年刊、第二卷、第七四頁)。

資本制生産方法の『永遠の自然律』を解放して、労働者と労働條件との間の分離行程を完うし、一方の極に於ては社會的生產機關並に生活資料を資本に轉化し、他方の極に於ては衆民を賃銀労働者、即ち近世史の人為的產物たる自由『労働貧民』(二百四十八)に轉化するには、斯る非常な努力を要したのである。貨幣は——オーヂエーの言ふ如く——『一方の類に生來の血痕を帯びて此世に來たる』(二百四十九)ものであるとすれば、資本は頭为天邊から足の爪尖に至るまで、總ての毛孔から血と汚物とを滴らしつゝ、此世に來たるものと云ひ得るのである(二百五十)。

(二百四十八)『労働貧民』てふ言葉は、賃銀労働者階級が人目を引くに至つた瞬間から英吉

利の法律中に現はれたものである。『労働貧民』は一方に於ては、『遊惰貧民』たる乞食その他、他方に於ては、いまだ詐取さるゝ人間に非らずして自己の労働要具の所有者たる労働者に、對立してゐる。此『労働貧民』てふ言葉は、法律から經濟學に移り行き、カルベパー、ジョサイア・チアイルド等から、アダム・スミス及イーデンにまで及んだ。之れに従つて、『労働貧民』てふ言葉を『呪ふべき政治上の文句』と呼んだ『呪ふべき經濟學上の文句製造者』エドモンド・パークの誠意を判断せよ。或は英國寡頭政府に雇はれて佛蘭西革命に對し、浪漫主義者たる役割を演じ、或は亞米利加動亂の初期北米の植民地に雇はれて英國寡頭政府に對し、自由主義者たる役割を演じたる此阿諛者は、徹頭徹尾凡庸なるブルジョアであつた。『商業の法則は自然の法則であり、隨つて神の法則である』(前掲エドモンド・パーク著『飢饉に關する諸々の所見及委曲』倫敦版、一八〇〇年刊、第三一及三二頁)。彼れが神と自然との法則に忠にして、我身をいつも最良の市場に賣いだことは、怪しむを須ひないのである！我々は牧師タッカーの著書文章中に(タッカーは僧侶にしてトリー派であつたが、他の點に於ては端正なる人物であり、堪能なる經濟學者であつた)、自由主義者たりし時代に於ける此エドモンド・パークの好個の特徴描寫を見出すのである。今日弘く憂つて居り而して最も敬虔に『商業の法則』を信仰する所の恥づべき無節操に當面する時、幾度も幾度も新らしいパーク——たゞ才能てふ一點に於てのみ舊パーク等に劣るに過ぎぬ所の——を發賣するは、我々の義務である！

(二百四十九)マリー・オーチエー著『公債』巴里、一八四二年刊。

(二百五十)『資本は混亂と紛擾とを避け、性質極めて臆病な者であるとは、クォーターリ・レビュー記者の言ふ所である。之れは極めて至當な言であるが、然し問題を顧る不充分に敘述したものである。自然は眞空を怖ると従前言はれてゐた如く、丁度其様に、資本は無利潤を怖れるものである。充分なる利潤ある場合には、資本は極めて大膽である。一割の利潤確實ならば、資本は何處に於ても之れを使用するを得べく、二割の利潤あらば資本は活潑となり、五割の利潤あらば積極的に大膽となり、十割の利潤あらば人間の定めた一切の法律を蹂躪し、三十割の利潤あらば如何なる犯罪をも顧慮せず、其所有者が死刑に所せらるゝの危険をも辭さないものである。混亂と紛擾とが利潤を齎せば、資本は遠慮なく其雙方を奨励するであらう。密輸出入と奴隷貿易とは茲に述ぶる事の眞實なるを充分に立證した』(前掲ダニング著『労働組合と罷工』倫敦、一八六〇年刊、第三六頁)。

(七) 資本制蓄積の史的傾向

資本の本來的蓄積換言すれば資本の歴史的發生は結局如何なることに歸するか？其れは、奴隸及び農奴の、貸銀労働者への直接の轉化即ち單なる形態變化にあらざる限り、直接の生産者に對する收奪換言すれば自己の労働に基く私有の解體を意味するに過ぎぬ。

社會的、集合的所有に對立せるものとしての私有は、労働要具及び其他の外部的労働諸條件が私人等の有に屬する場合にのみ成立するものである。されど之等の私人が労働者たるか非労働者たるかに準じて、私有も亦異つた形態を帯びる。私有を最初に一瞥する時、我々の目に入る無數の濃淡は、畢竟この兩極間に存する諸々の中間状態を反映するものに外ならぬ。

労働者が自己の生産機關を私有することは、小經營の基礎であり、小經營は又、社會的生產と労働者自身の自由個性との發展上必要なる一條件である。斯くの如き生産方法は、奴隸制度、農奴制度及び其他の隷従状態内にも存在することは確かであるが、然し其れが繁榮し、全力を奔放せしめ、適當なる典型的形態を取得するは労働者が自から使用する労働諸條件、即ち農民ならば自から耕す土地、手工業者ならば自ら熟技者として取扱ふ器具の自由なる私有者たる場合に限るのである。

此生産方法は、土地及び其他の生産機關の分散を前提する。其れは、之等生産機關の集中を除外する如く、また協業、同一生産行程内に於ける分業、自然に對する社會的支配並に調節、社會的生產力の自由なる發展等をも除外する。其れは、只生産

並に社會の狹隘なる原生的制限と一致するに止まる。斯る生産方法を永久化せんとするは、ベクルの適言せる如く『普遍的平凡を樹立する』ことになるであらう。此生産方法は一定の發達程度に達すると自己を破壊する所の物質的手段を齎らす。此の瞬間以後、社會の胎内に諸々の力と情熱とがどよめき始めるのである。之等の力と情熱とは、自己が右の生産方法に拘束されるゝを感ずる。之れを破壊してしまはねばならぬ、其れは破壊されるのである。其の破壊、換言すれば個人的にして分散的なる生産機關の、社會的に集中せる生産機關への轉化、即ち多數者の微細所有の、少數者の巨大所有への轉化、即ち多數衆民に對する土地と生活資料と勞働器具との收奪——衆民に對する此恐ろしき苛酷な收奪こそ、資本の序歴たるものである。此收奪は多くの強行的方法を包含する。其中たゞ劃期的なもののみを、我々は資本の本來的蓄積の方法として檢分した。直接の生産者に對する收奪は、無慈悲極まる兇暴を以て、又最も恥づべき最も不潔な、最も卑陋にして忌はしき情熱の刺戟の下に全うされる。自己の努力に依て取得せる、謂はゞ各箇の獨立的勞働個體と其勞働諸條件との融合に基く私有は、他人の、然し形式的には自由

なる、勞働の、搾取に基く資本制的私有に依つて驅逐される(二百五十一)。

(二百五十一)『我々は全く新たな社會的事務の中に生存してゐる。…我々は各種の所有を各種の勞働から分離しやうと努めてゐる』(シスモンチ著『經濟學新原論』第二卷、第四三四頁)。

斯る轉形行程が舊社會をば、深さに於ても廣さに於ても充分に分解するや否や、勞働者がプロレタリア化し其勞働諸條件が資本化するや否や、資本制生産方法が自立するや否や、勞働の尙それ以上の社會化、及び土地其他の生産機關の、社會的に利用されるゝ、即ち共同的なる生産機關への尙それ以上の轉化、隨つて又私有者に對する尙それ以上の收奪は、新たななる一形態を取得する。今や收奪を蒙むる者は、もはや自營的勞働者ではなく、多くの勞働者を收奪しつゝある資本家である。

此收奪は、資本制生産その者の内在的法則たる資本の集中に依つて行はれる。一人の資本家は常に多くの資本家を打ち殺す。此の集中、換言すれば少數資本家に依る多數資本家の收奪と提携して、勞働行程の、絶えず擴大する規模に於ける協業的形態、科學の意識的なる技術的應用、土地の計劃的利用、勞働要具の共同的にの

み使用し得る労働要具への轉化、有らゆる生産機關をば結合的社會的労働の生産機關として使用することに基く其節約、各國民が世界市場の網に絡まると、それと共に又、資本制度の國際的性質等が發達して來る。斯る轉形行程の有らゆる利益を横奪獨占する大資本家の數が絶えず益々減少すると共に、窮乏や、壓迫や、奴隸状態や、壞類や、搾取などの量は益々増大して來るのである。か又それと共に資本制生産行程自體の機構に依つて訓練、統合、組織さるゝ、絶えず増員しつゝある労働者階級の反抗が増進する。資本獨占は、それと共にまた其もとに開花繁榮せる生産方法の極端となる。生産機關の集中と労働の社會化とは、其資本制的外殻と一致し難き點に到達する。資本制的外殻は破裂する。資本制的私有の吊鐘は鳴る。收奪者は收奪される。

資本制生産方法に基く資本制占有方法、随つて資本制私有は、自己の労働を基礎とする個人的私有の第一否定である。されど資本制生産は、一の自然行程たる必然を以て自己の否定を造り出す。之れは否定に對する否定である。此否定は私有を再興するものではない、が然し資本制時代の造詣たる、協業、並に土地及び労働

自體に依つて生産された生産機關の、共有に基く個人的所有は之れを造り出すのである。

個々人の自己労働に基く分散的私有の、資本制的私有への轉化は、事實上すべてに社會的生產經營に基いてゐる資本制所有の、社會的所有への轉化に較ぶれば、比較にならぬほど彌久的にして激烈且つ困難なる一行程たるは言ふまでもない。前者に於ては、少數横領者に依る衆民の收奪が問題であり、後者に於ては衆民に依る少數横領者の收奪が問題であるからである(二百五十二)。

(二百五十二)『ブルジョアを其の無意無抵抗なる負擔者とする、産業の進歩は、競争に基く労働者等の相互隔絶に代ふるに、協業に基く彼等の革命的結合を以てする。斯くて大工業の發達すると共に、ブルジョアが依つて生産し生産物を占有せる基礎は、ブルジョアの脚下から奪ひ去られてしまふ。即ちブルジョアは、何よりも先づ自身自身の基礎者を生産してゐるのだ。ブルジョアの現滅とプロレタリアの勝利とは、共に均しく不可避的なものである。…今日ブルジョアに對立しつゝある有らゆる階級中、事實に於て革命的なる階級は單リプロレタリアのみである。他の諸階級は大工業の出現と共に壞滅し消滅する。プロレタリアは大工業の眞の産物である。…中流階級たる、小工業者、小商人、手工業者、小農民―彼等はいづれも中流階級としての其存在の消滅を防ぐ

べくブシチオアと闘つてゐる。…彼等は反動的である。なぜならば彼等は歴史の車輪を逆轉せんとするものであるから』(カール・マルクス、フリードリヒ・エンゲルス共著『共産黨宣言』倫敦、一八四七年刊、第九及一一頁)。

第二十五章 近世植民説(二百五十三)

經濟學は、極めて異なる二種の私有を原則上混同してゐる。其一は生産者自身の労働に基き、他は他人の労働の搾取に基くものである。後者は單に前者の正反對たるに止まらず、又全く其の墓上にのみ發育するものなることを、經濟學は忘れてゐるのだ。

(二百五十三) 茲ては眞の植民地、即ち自由な移住者に依つて拓植さるゝ處女地が問題である。亞米利加合衆國は經濟的に言へば、依然として歐羅巴の植民地たるを失はない。だが其れには又、奴隸制度の廢止に依つて事情一變せる如き舊拓植地も屬してゐるのである。

經濟學の故國たる歐洲西部に於ては、本來的蓄積の行程は既に多かれ少なかれ完成された。資本制度は同所に於ては、國民的生産全部を直接征服してしまつたか、又は事情がまだ其れほど發展して居らぬ所にあつては、少なくとも間接に、自己と並んで存續し壞滅に向ひつゝある、廢絶した生産方法に屬する諸種の社會部層を支配してゐるかの、いづれかである。此完成せる資本世界に於ては、經濟學者は

事實が高聲に彼れの想像を面詰すればする程、益々氣遣はしげな熱心と高調子とを以て、資本前期の世界に屬する權利並に所有の觀念を應用するのである。

植民地に在つては然らず。資本制度は此所では到る處生産者の障礙に逢著する。蓋し生産者は、自己の勞働諸條件の所有者として、自己の勞働に依り、資本家てなく自分自身を富ましてゐるのである。此兩極的に反對せる二箇の經濟制度の矛盾は、植民地に於ては事實上その雙方間の抗爭に於て發動してゐる。資本家が母國の權力を背後に有してゐる處に在つては、彼れは自己勞働に基く生産並に占有方法を強行的に一掃しやうとする。資本の阿諛者たる經濟學者をして、母國に在つては資本制生産方法を稱して理論上その反對物なりと言はしむる、其同じ利害關係は、植民地に於ては彼れをして、『其ありの儘を白狀し』此兩生産方法の對立を高聲に宣明せしめる。此目的の爲に彼れは、如何に勞働の社會的生產力の發達、換言すれば協業、分業、機械の大規模使用等が、勞働者等に對する收奪及び夫れに應當せる彼等の生産機關の資本化なくしては不可能なるかを證示してゐる。謂ゆる國民的富の利益の爲に、彼れは人民の貧窮を生ぜしむる人爲的手段を求めて

ゐるのだ。彼れの辯護論的甲冑は、此場合、腐つた火絨の如くボロ／＼にくづれてしまふのである。

植民地に就て何等新發見をなした譯ではないが(二百五十四)、植民地の中に母國の資本制事情に關する眞理を發見したことは、エドワード・ギボン・ウエーキフキールドの偉大なる功績である。保護制度が本來(二百五十五)母國に資本家を造り出さんと努めたものである如く、ウエーキフキールドの植民説——英吉利が一時立法に依つて實行しやうとした所の——は、植民地に賃銀勞働者を造り出さんと努めたものである。彼れは之を『組織的植民』と名づけてゐる。

(二百五十四) 植民地その者の本質に關するウエーキフキールドの若干の洞眼は、重農論者たる父ミラボー、更らに其れよりもズット以前には英國經濟學者等に依つて、全く先鞭を付けられてゐたものである。

(二百五十五) 保護制度は後に、國際的競争戰に於ける一時的な必要事となる。されど其動機は何うであらうとも、結果は同一である。

先づ、ウエーキフキールドは植民地に於て斯う云ふ事實を發見した。曰く一の人間は、貨幣、生活資料、及び機械その他の生産機關を所有すればとて、其補充たる賃

銀労働者、即ち發意的に自己を販賣するを餘儀なくされる人間を缺く時は、尙いまだ資本家たるを得ないのである。資本は物ではなく、物の仲介に依つて樹立される人と人との間の社會的關係なるを、彼れは發見した(二百五十六)。彼れは、ビール君が五萬磅に當る生活資料並に生産機關を、英吉利から西濠洲スワンリヴァーに携へて行つたことを嘆じてゐる。ビール君は慎重にも、右のほか労働階級に屬する三千の成年男女及び兒童を携へて行つたのであつた。而も一度び目的地に達するや、『ビール君は、其寢床を仕度し又は河から水を汲み來たるべき一人の僕婢もなき状態に置かれた』(二百五十七)のである。總てを用意したが、たゞ英吉利の生産事情をスワンリヴァーに輸出することだけを忘れた不幸なるビール君よ!

(二百五十六)『一の黒人は一の黒人である。一定事情の下に、彼れは始めて奴隸となるのである。一の木綿機は木綿を紡績する一機械である。一定事情の下にのみ、それは資本となるのである。此の事情外にある時、それは資本にあらざること、尙金が其れ自體に於ては貨幣ではなく、又は砂糖が砂糖の價格ではないのと同じである。…資本は一の社會的生產關係である。それは一の歴史的生產關係である』(拙稿『實銀労働と資本』一八四九年四月七日『新ライオン新聞』第二六六號所載)。

(二百五十七) エドワード・ギボン・ウエーキフキールド著『英吉利と亞米利加』第二卷、第三三頁(註)。

左に掲ぐるウエーキフキールドの諸發見を會得し易からしむる爲、豫め二の事柄を述べて置く。我々は、生産機關並に生活資料は、直接の生産者の所有に屬する限り、何等の資本にあらざることを知る。之等の物は、それを同時に労働者に對する搾取並に支配要具として役立たしむる條件の下に於て、始めて資本となるのである。然るに生産機關並に生活資料の此資本制的靈魂は、經濟學者の腦裡に於ては其の素材的實體と極めて密接に結合し、かくて彼れは之等の物を、如何なる事情の下にも、それが資本とは正反對なものである場合にも、資本と名づけてゐる程である。現にウエーキフキールドが其うである。更らに彼れは、生産機關が相互獨立せる多數自營的労働者の個人的所有物として分散することを、資本の均分と名づけてゐる。經濟學者の遺方は尙、封建的法學者の遺方の如くである。封建的法學者は純然たる貨幣事情に對しても、其の封建的法律標箋を粘付するのである。

ウエーキフキールドは曰く、『若し社會の有らゆる成員が等量の資本を有する

とすれば、……何人も自己の手を以て使用し得る以上の資本を蓄積しやうとする動機を有せぬであらう。之れは或程度までは、亞米利加に於ける新植民地に行はれてゐる所である。蓋し同地に於ては、土地所有に對する熱求は、被傭労働者階級の存在を妨げるのである』(二百五十八)。

(二百五十八) 前掲書、第一卷、第一七及一八頁。

即ち、労働者が自分自身の爲に蓄積し得る限り——而して彼れは其生産機關の所有者たる限り斯くすることが出来るのである——資本制蓄積並に資本制生産方法は不可能である。此蓄積並に生産方法に必要不可欠なる賃銀労働者階級が缺けてゐるからである。然らば舊歐羅巴に於ては、如何にして労働者に對する其労働諸條件の收奪が行はれ、随つて資本と賃銀労働とが並存するに至つたか？曰く、全く斬新種類の一社會的契約に依つて。

『人類は……資本の蓄積を振興すべき單純なる一方法を採用した。』此方法はアダムの時代以來、人類生存の畢竟唯一の目的として其想像中に浮んでゐたものである。即ち『人類は資本の所有者と労働の所有者とに自己を分割した。……此分

割は合意と協約との結果であつた』(二百五十九)。

(二百五十九) 前掲書、第一八頁。

一言すれば、人類の多數は、『資本の蓄積』の名譽の爲に自己を收奪せしめたのである。そこで我々は考へるであらう、斯る克己的狂熱の本能は、殊に植民地に於て充分發動するに違ひない。蓋し一の社會的契約を夢想境から現實境に移轉せしめ得べき人間及事情は、單り植民地にのみ存するからである。だが、それにしては何故、原生的植民に對抗して『組織的植民』を持ち出すのであるか？けれども——けれども、『亞米利加聯合國北部諸州に於て、被傭労働者の部類に屬する人口が果して總人口中の十分の一に達するか何うかは疑はしい。……英吉利に於ては……人口の大部分は労働階級から成つてゐる』(二百六十)。

(二百六十) 前掲書、第四二、四三及四四頁。

誠に、労働人類が資本の名譽の爲にする自己收奪の衝動なるものは、殆ど存在して居らぬものであつて、ウエーキフィールド自身に従ふも、奴隸制度は植民地に於ける富の唯一の原生的基礎たる程である。彼れの組織的植民は一の應急策たる

に過ぎぬ。なぜならば、彼れが問題とする所のものは、不幸にして自由民であつて奴隸ではないからである。『サンドミンゴに植民せる最初の西班牙人は、西班牙から毫も労働者を受けなかつた。されど労働者〔換言すれば奴隸制度〕なくんば、資本は腐滅したに違ひない。或は少なくとも、各個人が自己の手で使用し得る小額程度に應て縮小して了つたに違ひない。之は事實に於て英吉利人の立てた最後の植民地(スワソリヴァー植民地)に行はれた所である。此植民地に於ては、種子、器具、家畜等巨額の一資本は、それを使用すべき労働者なきため腐滅して了ひ、如何なる植民者も自己の手で使用し得るより遙か以上の資本は之れを保存しなかつたのである』(二百六十一)。

(二百六十一) 前掲書、第二卷、第五頁。

衆民に對する土地收奪が、資本制生産方法の基礎たることは、我々の既に見た所である。自由植民地の本質は之れを反對に、土地の大部分が尙公有に屬し、隨つて各植民者は其一部を自己の私有財産及個人的生産機關に轉化し得る——後に來たる植民者が其れと同じ事をするを妨げずして——點に存してゐる(二百六十二)。

之れは、植民地の繁榮、並に其癌症たる資本の植民に對する其反抗の秘密である。『土地は頗る安價、萬人は自由であつて、何人も欲する儘に自己の土地を獲得し得ること容易なる所にあつては、單に労働が極めて高價——生産物に對する労働者の受分に就て——なるのみではない。如何なる價格を拂つても結合労働を得ることが、至難なのである』(二百六十三)。

(二百六十二) 『土地は植民の一要素たるには未耕たるを要するのみでなく、又私有に轉化し得べき公有たるを要するのである』(前掲書、第二卷、第一二五頁)。

(二百六十三) 前掲書、第一卷、第二四七頁。

植民地に於ては、労働者と労働諸條件並に其の根柢たる土地との分離は未だ存在せず、又は單に此處彼處、或は餘りに狹隘なる範圍に於てのみ存在するに止まり、農業と工業との分離並に田舎的家庭的産業の破壊は未だ存在して居らぬ。斯様な所に在つて、資本に對する國內市場は果して何處より生じ得るであらうか？『亞米利加に於ては、特殊の經營に對し資本と労働とを結合してゐる奴隸及び其使用主を除き、専ら農業のみを營んでゐる者はないのである。土地を耕してゐる自由

亞米利加人は、同時に他の幾多の職業にも従業してゐる。彼等が使用する家具や道具の若干部分は、通例彼等自身の製造にかゝるものである。彼等は屢々自己の家屋を築造し、如何なる距離をも辭せず自業の生産物を市場に運搬してゆく。彼等は紡績匠であり織匠である。彼等は石鹼や蠟燭を造り、又自用の靴や衣類を造る場合もある。亞米利加に於ては、土地の耕耘は屢々、鍛冶匠、磨穀業者、又は小賣商人の副業である（二百六十四）。斯くの如き奇妙なる人々の間に於て、資本家に對する『節慾の餘地』は果して何處に存するてあらうか？

（二百六十四）前掲書、第二一及二二頁。

資本制生産の大なる美點は、それが絶えず賃銀労働者を賃銀労働者として再生産するのみではなく、又資本の蓄積に應じて常に賃銀労働者の相對的過剰人口を生産する點に存してゐる。斯くて労働の需給律は正しき軌道内に保持され、賃銀の動搖は資本制搾取の満足する制限内に抑置され、そして最後に資本家に對する労働者の必要不可欠なる社會的隷從——郷里なる母國に於ける經濟學者が、甘言を以て購買者と販賣者、獨立の商品所有者たる、資本てふ商品の所有者と、労働てふ

商品の所有者との自由契約關係に欺き變へ得る所の、一の絕對的隷從關係たる——は確保される。然るに植民地に於ては、此美しき幻想は寸斷されてしまふ。植民地に於ては、多くの労働者は既に成人して此世に來たるので、母國に比べると絕對的人口の増殖は遙かに急激である。而も労働市場は常に品不足である。労働の需給律は無効に歸してしまふ。一方に於て、舊世界は絶えず搾取を渴望し節慾を要求しつゝある資本を投げ込み、他方に於て、賃銀労働者を賃銀労働者として規則正しく再生産するとは、最も不躑にして且つ一部分は打勝ち難き障礙に逢著する。所て資本の蓄積に應じて過剰の賃銀労働者が生産されるとは何うなるか？今日の賃銀労働者は、明日は獨立自營の農民又は手工業者となる。彼等は労働市場から消え去る。けれども其れは勞役場内に消えゆくのではない。賃銀労働者が斯く不斷に、資本の爲にてなく自分自身の爲に労働し、主人たる資本家をてなく自分自身を富ませる所の獨立生産者に轉化するとは、又労働市場の狀態に對して全く有害に反作用する。單に賃銀労働者の搾取程度が無禮に低微に止まつてゐるのみではない。加之、賃銀労働者は節慾的資本家に對する隷從關係を失ふと共

に隷従心をも失つてしまふのだ。我がエドワード・ギボン・ウエーキフィールドが、斯く勇敢に、斯く雄辯に、斯く哀傷的に描述してゐる總ての悪弊は、此に由来するものである。

彼れは、賃銀労働の供給が不斷的でもなく、規則正しくもなく、また充分でもないことを嘆じてゐる。『賃銀労働の供給は、常に小なるのみでなく、又不確實である』(二百六十五)。「資本家と労働者との間に分配さるゝ生産物は、大であるとは云へ、労働者は極めて大なる分け前を取り、直ちに一の資本家となつてしまふ程である。……而も巨額の富を蓄積し得るものは、殆んど——非常に長命なる人々の間にも——絶無である」(二百六十六)。労働者等は、資本家が彼等の労働の大部分の支拂を節慾するを断じて許さない。資本家が狡猾であつて、自己の資本と共に自己の賃銀労働者等をも歐羅巴から輸入するにした所で、それは彼れにとつて何にもならぬ。彼等は、被傭労働者でなくなる。彼等は……労働市場に於ける其舊雇主との競争者たるか、然らざれば獨立の地主となつてしまふのである」(二百六十七)。其恐ろしさを想像せよ！天晴れな資本家は、自分の大切な貨幣で以て自分の競争者その

ものをソックリ歐羅巴から輸入して來たのである！然るに今や萬事窮す矣！ウエーキフィールドが、植民地に於ける賃銀労働者に隷従關係と隷従心との缺如せるを悲嘆したことは、寔にさもあるべきことである。彼れの門弟メリヴェールは曰く、植民地に於ては賃銀高きため、より安價にして従順なる労働に對する——資本家に條件を課するのでなく、資本家に依つて條件を課さるゝ一階級に對する、情熱的渴望が存してゐる。……舊來の文明國に於ては、労働者は自由であるとは云へ、資本家に對して自然律的に隷従してゐる。植民地に於ては、此隷従は人爲的手段に依つて造り出されねばならぬのである(二百六十八)。

(二百六十五) 前掲書、第二卷、第一一六頁。

(二百六十六) 前掲書、第一卷、第一三一頁。

(二百六十七) 前掲書、第二卷、第五頁。

(二百六十八) メリヴェール著『植民及植民地に就ての講義』倫敦、一八四一及一八四二年年刊第二卷、第二三五—三一四頁隨所。 穩健にして自由貿易主義者なる俗學的經濟學者メリナリデキも斯う言つてゐる。——「奴隸制度は廢止されて、而も強制労働に代ふるに其れに適當せる分量の自由労働を以つてすることなき諸植民地に於ては、日々我々の眼前に現はれてゐるのは反對な事實の出現せることが見られた。即ち我々は、單

純なる労働者等が却て如何に産業的企業者を搾取してゐるか、彼等は如何に企業者から生産物中彼等の有に歸すべき正當の受分とは比較にならぬほどの高賃銀を要求してゐるかを見たのである。植民者等は其砂糖に於て、賃銀の昂騰を償ひ得べき一價格を得ることが出来なかつたので、已むを得ず、最初は其利潤、後には其資本自體を以て右の不足を補はねばならなかつた。かくして若干の植民者は破綻し、又他の植民者等は眼前に迫つてゐる破綻を免れんとして其經營を中止した。幾代もの人類の破綻を見んよりは、寧ろ蓄積資本の破滅を見るに如かざることは、疑を容れない。「何んと寛大なモリナリ君だらう！」だが、其雙方とも破滅しなければ、尙更ら結構ではなからうか？」（前掲モリナリ著『經濟學研究』巴里、一八四六年刊、第五一及五二頁）。モリナリ君よ、モリナリ君よ！歐羅巴に於ては企業者が労働者に對し、西印度に於ては労働者が企業者に對して、其『正當の受分』を縮少し得るとすれば、十誠は、モーゼと豫言者等は、需要供給の法則は、果して何うなるであらうか？而して希くは、貴公の自白する所に従へば歐羅巴の資本家が日々支拂つて居らぬ此『正當の受分』とは、抑も如何なるものであるか？他の場合ならば自動的に作用する需給律に對し、労働者が資本家を搾取する程に『單純』なる彼方植民地に於ては、モリナリ君は之れを警察權もて正しき軌道内に保持せんとの強烈なムツ痒ゆきを感じてゐるのである。

然らば、ウエーキフキールドの見る所に於て、斯る惡弊の結果は如何？曰く、生産者並に國民的財産を『驅逐する所の野蠻化的一制度』(二百六十九)是れてある。生産

機關が無數の自營的所有者間に分散するとは、資本の集中を破壊すると共に結合労働の總ての基礎を破壊するものである。數年間に互り而して固定資本の支出を要する一切の永續的企業は、其の實行上の障礙に逢著する。歐羅巴に於ては、資本は何等の躊躇をもしない。なぜならば労働者階級は、常に過充し常に支配し得る資本の生きた附屬物たるからである！だが植民地に於ては！ウエーキフキールドは、極めて傷ましき一珍話を語つてゐる。彼れは、移住の波が屢々停滯して『過剩』労働者の沈澱を残す加奈陀及び紐育州の、若干資本家と語つてゐた。此樂劇中の一人物は曰く、『我々の資本は、完成上長期の時間を要する幾多の事業を待ち設けてゐた。されど我々は、直ちに我々を去つてしまふと知れてゐる労働者を以てしては、斯る事業を開始するとは出来なかつた。若し斯くの如き移住者の労働を確實に保持し得たとすれば、我々は喜んで直ちに而も高價格で、それを備入れたであらう。又縦令斯る労働が我々を去ると必定であつたとしても、必要の場合新たなる供給が確かに得られるとすれば、我々は其れを備入れたであらう』(二百七十)。

(二百六十九)ウエーキフキールド前掲書、第二卷、第五二頁。

(二百七十) 前掲書、第一九一及一九二頁。

ウエーキフキールドは、英吉利の資本制農業及其『結合』労働をば亞米利加の分散的自作農業と美々しく比較對照せる後、つい迂濶にメタルの裏を見せてゐる。彼れは亞米利加の民衆をば、有福にして獨立心を有し且つ企業的にして比較的教養あるものとして描出してゐる。然るに『英吉利の農業労働者は慘憺たる窮乏者、即ち被救恤的窮民である。……北亞米利加及び若干の新植民地を除き果して如何なる國に於て、農業に使用さるゝ自由労働の賃銀は、労働者にとつて必要不可欠なる生活資料を遙かに超越してゐるであらうか？……英吉利に於ては、農馬は貴重なる一財産であつて、農業労働者等よりも遙かに善き榮養を給されてゐることは疑ひを容れない』(二百七十一)。だが心配するな、國民的富は本來人民の窮乏と一致するものなのだ。

(二百七十一) 前掲書、第四七及二四六頁。

所で、植民地の反資本的癌症は如何にして之れを癒すべきか？若し總ての土地を一舉にして公有から私有に轉化しやうとすれば、成るほど弊毒の根源はそれ

破壊されるであらうが、同時に又植民地も破壊されてしまふであらう。如何にして一舉兩得すべきかと云ふことが、呼吸なのである。政府をして、需給律から獨立せる人爲的の一價格——移住者が土地を購ひ獨立の一農民たるに充分の貨幣を勞收し得るに至るまで、彼れをして、より、長期間賃銀労働するを餘儀なからしむる所の(二百七十二)——を處女地に課せしめよ。他方に於て、賃銀労働者にとつては比較的禁止的な一價格を以てする土地販賣に基く基金——需給の神聖律を犯すことに依つて勞銀中から強取せる此の貨幣基金に就ては、政府は之れを其額の増大するに應じて、歐羅巴から無一文者を植民地に輸入し以て資本家の爲に其労働市場を充實し置くに使用すべきである。斯る状態の下に、總てはあらゆる世界中の最善なる世界に於ける最善なるものとなるのである。

(二百七十二) 『自己の腕以外に何物をも有せざる人が、職を見出し收入を造り出すは、土地及資本の占有の結果である、汝は主張する。……反對に、自己の腕以外に何物をも有せざる人の存するは、土地の個人的占有に基くものである。……真空中に人を押し入るゝ時、汝は彼れの呼吸すべき空氣を奪ふことになる。汝は土地を占取する時、之れと同じ事をしてゐるのだ。……即ち彼れの生命を汝の專擅に謀從せしむべく、彼を富の真空中

に押し入れて居るのである』(前掲コラン著『經濟學』第三卷、第二六八—二七一頁隨所)。

之れ『組織的植民』の大なる秘密である。ウエーキフキールドは得々然と叫んで曰く、『労働の供給は不斷にして規則的でなければならぬ。なぜならば第一、如何なる労働者も貨幣を得べく労働した後でなければ、土地を取得すること不可能なるべきを以て、總ての移住労働者は一時賃銀を得べく結合して労働することに依りより、多くの労働者を使用すべき資本を造り出すであらう、第二、賃銀労働を止め地主となつた總ての労働者は、土地を購ふことに依つて、新たな労働を植民地に齎らすべき一基金を準備するであらうから』(二百七十三)。

(二百七十三)ウエーキフキールド前掲書、第二卷、第一九二頁。

國家の課する土地價格は固より『充分なる價格』でなくてはならぬ、換言すれば『賃銀労働市場に其交代者來る迄は、労働者等をして獨立の農民たらしめざる』ほど高き者でなくてはならぬ(二百七十四)。此の『充分なる價格』とは、畢竟、労働者が賃銀労働市場から土地へ引退する許可料として資本家に支拂ふ贖金を、婉曲に言現はした者に外ならぬ。労働者は先づ、其主人たる資本家が依つてより、多くの勞

働者を搾取し得べき『資本』を、彼れ資本家の爲に造り出さねばならぬ。次に彼れは、其舊主たる資本家の利益の爲に政府が彼れ労働者の費用を以て、海の彼方から輸送し來たる一『補充員』を、労働市場に送り出さねばならぬ。

(二百七十四)前掲書、第四五頁。

ウエーキフキールド君が特に植民地用として處方せる『本來的蓄積』の右の辦法をば、英國政府が多年實行し來つたことは、極めて特徴的な事柄である。其失敗は、固よりビールの銀行條例の失敗同様甚だしいものであつた。結局移住の流れが英領諸植民地から亞米利加合衆國へ轉向されたに過ぎなかつた。斯る間に、歐羅巴に於ける資本制生産の進歩——政府の壓迫の増大を伴へる——は、ウエーキフキールドの處方を不要に歸せしめた。一方に於て、年々亞米利加へ逐ひ遣らるる巨大にして連続的な人間の流れは、亞米利加合衆國の東部に停滞的沈澱を殘してゆく。蓋し歐羅巴からの移住の波は、西部への移住の波が洗ひ去り得る以上の急速力を以て同地の労働市場に人間を投げ入れるからである。他方に於て、南北戦争は莫大なる國債を齎らし、又其れと共に租税の壓迫、最劣等なる金融貴族の

造出、鐵道、鑛山などの利用を目的とする投機會社への公有地の巨大部分の濫贈等——約して言へば、極めて急激なる資本集中を齎らした。かくて此の大共和國は、移住労働者等に對する約束の國でなくなつてしまつた。同國に於ては、賃銀低落と賃銀労働者の隷従とはまだ——歐羅巴の水準までは降下して居らぬが、資本制生産は驚くべき急速力を以て進行してゐるのである。

ウエーキングフィールド自身に依つて斯く高聲に非難された英國政府に依る貴族及資本家への未耕植民地の破廉恥的濫贈は、就中濠洲に於て(二百七十五)、金の採掘が同地へ吸引せる人間の流れ、及び英國品の輸入が極小手工業者に對してさへも招致せる競争と合して、充分なる『相對的過剩労働人口』を造り出し、かくて郵船毎に『濠洲労働市場の過充』に就ての凶報を齎らさざるものは殆んどなき有様となつた。而して賣淫は同地の此處彼處に於て、倫敦のヘーマーケットに於けると同様、蕪鬱と繁茂してゐるのである。

(二百七十五) 濠洲は、自己の立法者たるに至るや否や、言ふまでもなく、移住者等に有利の法律を制定したが、一度び英國政府に依て實行された土地濫贈は障礙となつてゐる。

『一八六二年の土地條例が達成せんとせる第一の又主要なる目的は、人民の移住をより容易ならしめんとするに在る』(公有地大臣オナラブル・ゲーヴ・オン・ダフ・キーのヴィクトリア土地條例、倫敦一八六二年)。

されど植民地の状態は、此の場合我々の問題とする所でない。我々の興味を喫する唯一の事柄は、舊世界の經濟學者が新世界に於て發見し聲高く宣明せる秘密、これである。——曰く、資本制的生産並に蓄積方法、随つて又資本制的私有は、自己労働に基く私有の破壊、換言すれば労働者に對する收奪を條件とするものである。

王の爲に働く)とは「只働き」の意である。

- (63) J. J. Rousseau, "Discours sur l'Economie Politique. Genève 1765."
- (64) manufactures réunies.
- (65) "The Natural and Artificial Rights of Property Contrasted. London 1832," p. 98, 99.
- (66) William Howitt, "Colonization and Christianity. A Popular History of the Treatment of the Natives by the Europeans in all their colonies. London 1838," p. 3.
- (67) Charles Comte, "Traité de la Législation. 3 me ed. Bruxelles 1837."
- (68) Thomas Stamford Raffles, late Lieut. Gov. of that island, "Java and its dependencies."
- (69) agiotage 公債證書等の相場を昂低せんとする投機者の掛引。
- (70) Thomas Gisbourne, "Enquiry into the Duties of Men. 1795," v. II.
- (71) Henry Brougham, "An Inquiry into the Colonial Policy of the European Powers. Edinb. 1803. v. II, p. 74.
- (72) Marie Angier, "Du Credit Publee. Paris, 1842."

第二十五章

- (1) systematic colonization,
- (2) E. G. Wakefield, "England and America," v. II, p. 33.
- (3) Merivale, "Lectures on Colonization and Colonies. London 1841 and 1842," vol. II, p. 235-314 passim.
- (4) The Land Law of Victoria by the Hon. G. Duffy, Minister of Public Lands. London 1862.

- (26) "Our old Nobility. By Noblesse Oblige. London 1879."
- (27) "Bills for Inclosures of Commons."
- (28) "A Political Enquiry into the Consequenses of enclosing Waste Lands. London 1795," p. 75.
- (29) Capital farm.
- (30) "Two Letters on the Flour Trade and the Dearness of Corn. By a Person in Business. London 1767," p. 19, 20.
- (31) Merchant farm.
- (32) Thomas Wright, "A short Address to the Public on the Monopoly of large Farms. 1779," p. 2, 3.
- (33) Rev. Addinton, "Enquiry into the Reason for or against enclosing open fields. London. 1772, "p. 37-43" passim.
- (34) MacCulloch, "Literature of Political Economy. London 1815."
- (35) Appian „Römische Bürger-Kriege," I, 7.
- (36) "The Perils of the Nation," 2nd ed.. Lond. 1843, p. 14.
- (37) clearing of estates (Lichten der Güter).
- (38) James Anderson, "Observations on the Means of exciting a Spirit of National Industry etc. Edinburgh 1777."
- (39) George Ensor. "An Inquiry concerning the Population of Nations. Lond. 1818," p. 215, 216.
- (40) David Urquhart, "Portofolio. New Series."
- (41) Robert Somers, "Letters from Highlauds; or, the Famine of 1847, London 1848," p. 12-23 passim.
- (42) Bauernlegen.
- (43) roundsman.
- (44) Hollingshed, "Description of England," v. I, p. 186.

- (45) Strype, "Annals of the Reformation and Establishment of Religion, and other Various Occurrences in the Church of England during Queen Elisabeth's Happy Reign. 2nd ed. 1725," vol. II.
- (46) royaume des truands.
- (47) in open market.
- (48) "Sophisms of Free Trade. By a Barrister. Lond. 1850."
- (49) Kaiserliche Privilegien und Sanctions für Schlesien. I, 1251.
- (50) "Révolutions de Paris. Paris 1791," vol. III, p. 523.
- (51) Buchez et Roux, "Historie Parlementaire," t. X, p. 193-195.
- (52) villicus 農業奴隸の監督者。
- (53) metayer.
- (54) "A Compendious or Briefe Examination of Certayne Ordinary Complaints of Diverse of our Countrymen in these our Days. By W. S., Gentleman" (London 1581).
- (55) regisseur.
- (56) homme d'affaires.
- (57) Alexis Monteil, "Historie des Matériaux manuscrits etc," 244.
- (58) ferme 又は terrier.
- (59) fief.
- (60) arrière fief.
- (61) Geoffroy Saint-Hilacre, "Notions de Philosophie Naturelle. Paris 1838."
- (62) Stenern pour le roi de Prusse 直譯すれば『普魯西王の爲の租税』。佛國語で travailler pour le roi de Prusse (普魯西

- (64) Murphy, "Ireland, Industrial, Political, and Social, 1870."
 (65) "Reports from the Poor Law Inspector on the Wages of Agricultural Labourers in Dublin, 1870."
 (66) "Agricultural Labourers (Ireland) Return etc. 8 March, 1832."
 (67) 平民版に依る。正版では『一八四六年に於ける』となつてゐる。
 (68) Nassau W. Senior, "Journals, Conversations and Essays relating to Ireland," 2 vols London 1868, v. II, p. 282.
 (69) Fenier 愛蘭を英國の治下より脱せしめんと圖つた在米愛蘭人結社の團員。
 (70) ホレス詩集第七篇。

第二十四章

- (1) ursprüngliche Akkumulation.
 (2) previous accumulation.
 (3) bailiff (Vogt) 領主に代つて其土地を保管する人即ち差配。
 (4) freehold estate.
 (5) Macaulay, "History of England, 10th. ed. London 1854," vol. I, p. 333-34.
 (6) Mirabeau, "De la Monarchie Prussienne. Londres, 1788, t. ii, pp. 125, 126.
 (7) Fortescue, "Laudibus Legum Angliae."
 (8) Harrison, "Description of England. Prefixed to Holinshed's Chronicles."
 (9) inclosure (Einhegung) 圍込み、共同地の私有化。
 (10) tenancy at will 地主の任意に處分し得る小作地。

- (11) yeomanry 獨立自作農民階級。
 (12) demens (Herrengüter) 領主の屋敷に隣接し小作を許さるる土地。
 (13) depopulating inclosure.
 (14) depopulating pasturage.
 (15) Thomas Morus "Utopia," transl. Robinson, ed. Arbor, London, 1869, p. 41.
 (16) Bacon, "Essays, Civil and Moral."
 (17) Bacon, "The Reign of Henry VII etc. Verbatim Reprint from Kennet's England, ed. 1719, London, 1870," p. 308.
 (18) George Roberts, "The Social History of the People of the Southern Countries of England in past Centuries. Lond, 1856," p. 184, 185.
 (19) William Cobbett, "A History of the Protestant Reformation," § 471.
 (20) Robert Blakey, "The History of Political Literature from the earliest times. London 1855, v. II, p. 84, 85.
 (21) "A Letter to Sir T. C. Banbury, Bt. On the High Price of Provisions. By a Suffolk Gentleman. Ipswich 1795," p. 4.
 (22) "Inquiry into the Connection of large Farms etc. London, 1773."
 (23) law of settlement.
 (24) "The character and behaviour of King William, Sunderland etc, as represented in Original Letters to the Duke of Shrewsbury from Somers, Halifax, Oxford, Secretary, Vernon etc."
 (25) F. W. Newman, "Lectures on Political Economy. London 1851," p. 129, 130.

- (32) Anticlimax.
- (33) "The Theory of Exchanges. The Bank Charter Act of 1844. The Abuse of the Metallic Principle to Depreciation. London." 1864, p. 135.
- (34) "Report of the Officer of Health of St. Martin's in the Fields, 1865."
- (35) bind (bound).
- (36) bon-lage (束縛、奴役)。
- (37) finanzieller Charakter.
- (38) "Reynolds' Newspaper," January 20th, 1867.
- (39) Edouard Ducpétiaux, "Budgets économique des classes ouvrières en Belgique, Bruxelles, 1855."
- (40) „De Vlamingen Vooruit! Brüssel 1860," p. 15, 16.
- (41) gentleman 貴族にあらざるも、紋章を有するの權ある人。
- (42) James E. Th. Rogers, "A History of Agriculture and Prices in England. Oxford 1866" v. I., p. 690.
- (43) "Reasons for the late Increase of the Poor-Rates; or a comparative View of the Price of Labour and Provisions London, 1777," p. 5, 11.
- (44) Dr. Richard Price, "Observations on Reversionary Payments, 6 ed. By W. Morgan. London 1805," v. II, p. 158, 159.
- (45) E. G. Wakefield, "England and America. London 1833," v. I, p. 47.
- (46) hind.
- (47) "Report of the Commissioners.....relating to Transportation and Penal Servitude. Lond. 1863," p. 42, 50.
- (48) close village

- (49) open village.
- (50) gang-system.
- (51) Prolétariat foncièr.
- (52) Karl Marx, „Der Achtzehnte Brumair des Louis Bonaparte," 2. Aufl., Hamburg, 1869, p. 56 sqq. Brumair は従前の佛國新曆十一月を指し、今の十月二十二日より十一月二十日迄を含む。一七九九年の Brumair 十八日 (十一月九日) 奈翁一世は共和政府を倒して自ら執政官となつた。それを茲では奈翁三世のクーデターに當嵌めたのである。
- (53) Pierre Dupont, "Ouvriers."
- (54) confined labourers.
- (55) gangmaster.
- (56) Rattenfänger von Hameln 獨逸昔噺中の主人公。獨逸の或町に來たり、一定の報酬を受けて其町の鼠退治を引受けたところ、退治してしまつてから報酬を出さぬので、彼れは怒つて其魔笛を吹き鳴らした。其音を聞いて町の子供等が洞穴の中に集つて來た。彼れは子供等を入れたなり洞の錠を下ろし、永へに其處へ幽閉した。
- (57) Phonerogamie.
- (58) public, common or tramping gang.
- (59) private gang.
- (60) "Agricultural Statistics Ireland. General Abstracts, Dublin" for the years 1860, et seq.
- (61) "Agricultural Statistics, Ireland. Tables showing the Estimated Average Produce etc. Dublin 1866."
- (62) professional.
- (63) Thomas Sadler, "Ireland, its Evils and Their Remedies, 2nd ed. London 1829."

- (2) Werthzusammensetzung des Kapitals.
- (2) technische Zusammensetzung des Kapitals.
- (4) organische Zusammensetzung des Kapitals.
- (5) Colins, "L'Economie Politique, Source des Révolutions et des Utopies prétendues Socialistes. Paris 1857," t. III, p. 331.
- (6) B. de Mandeville, "The Fable of the Bees. 5th ed. London 1728, Remarks, p. 212, 213, 328.
- (7) civil institutions.
- (8) Bruckner, "Théorie du Système animal, Leyde 1767."
- (9) "A Letter to A. Smith, L. L. D. On the Life, Death and Philosophy of his Friend, David Hume. By one of the People called Christians, 4th ed, Oxford, 1784."
- (10) James Anderson, "The Bee," Edinburgh 1791-93, Vol. III, p. 164, 165."
- (11) Peculium. 羅馬法に於ては、家長が非獨立民殊に奴隸の自由處分に委したる特別財物のことを斯く呼んでゐる。
- (12) Von Thünen. „Der isolirte Staat. Zweiter Theil. Zweite Abtheilung. Rostock 1863," p. 5, 6.
- (13) Koncentration.
- (14) ursprüngliche Akkumulation.
- (15) Zentralisation.
- (16) 此一句原文では「然るに……相對的なる、換言すれば資本の平均的價值増殖慾に比べて、多過ぎる……勞働者人口」となつてゐて、『相對的』を relative として『勞働者人口』Arbeitsbevölkerung の形容詞にしてゐるが、之れでは意味を成さぬやうに思はれる。依つて予は之を副詞として relativ の意味に譯した。英譯本でも relatively redundant となつてゐる。

- (17) "Census of England and Wales for 1862," vol. III. Lond. 1863, p. 36.
- (18) John Burton, "Observations on the Circumstances which influence the Condition of the Labouring Classes of Society London, 1817," p. 16, 17.
- (19) Herman Merivale, "Lectures on Colonization and Colonies. Lond, 1841 and 1842, v. I, p. 146.
- (20) Harriet Martineau "The Manchester Strike, 1842," p. 10.
- (21) Sancho Panza. ドンキホーテの從者、粗野なる常識を有するも、想像力なき百姓である。
- (22) Dr. Lee, Medical Officer of Health for Manchester.
- (23) Galiani „Della Noneta," vol. III. von Custodi's Sammlung der „Serittori Clussici Italiani di Economia Politica," Parte Moderna. Milano 1801, p. 78.
- (24) S. Laing, "National Distress, 1844," p. 69.
- (25) Lumpenproletariat 襤褸プロレタリア。
- (26) Faux frais 結果の上に何等の貢獻なきも、一定事情の下に避け得られざる營業費のこと。
- (27) G. Ortes, „Della Economica Nazionale libri sei, 1777," bei Custodi. Parte Moderna, vol. XXI, N. 6, 9, 22, 25 etc.
- (28) "A Dissertation on the Poor Laws. By a Wellwisher of Mankind. 1736," republished Lond. 1817, p. 15, 39, 41.
- (29) dignité conventionelle.
- (30) "Les nations pauvres, c'est là où le peuple est à son aise: et les nations riches, c'est là où il est ordinairement pauvre."
- (31) "Tenth Report of the Commissioners of H. M.'s Inland Revenue London 1866," p. 38.

- (12) "hind's house."
 (13) bondage (Hörigkeit).
 (14) bondman (Höriger).
 (15) Karl Marx, „Lohnarbeit und Kapital,“ in N. Rh. Z. Nr. 266, 7. Apr. 1849.

第二十章

- (1) Akkumulation des Kapitals.
 (2) Malthus, "Principle of Political Economy" 2nd ed. Lond. 1836, p. 319.
 (3) E. G. Wakefield, "England and America. London." v. II. p. 110.
 (4) Cherbuliez, "Riche ou Pauvre. Paris 184," p. 58.
 (5) R. Jones, "An Introductory Lecture on Political Economy London 1833," p. 16.
 (6) "The Source and Remedy of the National Difficulties. A Letter to Lord John Russell. London 1821."
 (7) "London Economist," 19 July, 1859.
 (8) "Tableau économique."
 (9) Storch, „Cours d'Economie Politique. Ed. Petersbourg 1815,“ vol. I, p. 140 n.
 (10) Dr. John Aikin, "Description of the Country from 30 to 40 Miles round Manchester. Lond. 1795," p. 182 sqq.
 (11) "An Inquiry into those principles respecting the Nature of Demand lately advocated by Mr. Malthus," p. 57.
 (12) Abstinence (Euthaltung)
 (13) Senior, "Principes fondamentaux de l'Écon. Pol." trad. Arrivabe, Paris 1836, p. 308.

- (14) Scrope, "Political Economy" edit. A. Potter, New-York 1841, p. 133, 134.
 (15) Richard Jones, "Text Book of Lectures on the Political Economy of Nations. Hertford, 1852," p. 16, 21.
 (16) J. St. Mill, "Essays on some unsettled Questions of Political Economy. Lond. 1844," p. 90.
 (17) "An Essay on Trade and Commerce," Lond. 1770, p. 44.
 (18) Benjamin Thomson, "Essays, political, economical and philosophical etc. 3. vols. Lond. 1796-1802," vol I., p. 288.
 (19) Sir. F. M. Eden, "The State of the Poor, or an History of the Labouring Classes in England etc."
 (20) Charles H. Parry M. D., "The Question of the Necessity of the existing Cornlaws considered. Lond. 1816," p. 69.
 (21) G. B. Newnham, "A Review of the Evidence before the Committees of the two Houses of Parliament on the Cornlaws. London 1815," p. 28, Note.
 (22) extractive Industrie.
 (23) J. B. Say, "Lettres à M. Malthus. Paris 1820," p. 163, 169.
 (24) "An Inquiry into those principles respecting the Nature of Demand lately advocated by Mr. Malthus," p. 116, 110.
 (25) J. Bentham, "Theorie des Peines et des Récompenses, trad. Ft. Dumont. 3 ème éd., Paris 1826, t. II, l. IV, ch. II.
 (26) H. Fawcett, Prof. of Polit. Econ. at Cambridge, "The Economic Position of the British Labourer. Lond. 1865," p. 120.

第二十三章

- (1) Zusammensetzung des Kapitals.

Growth, Commerce, and Consumption of Grain, and all Laws relating thereto”

- (15) “Remarks on the Commercial Policy of Great Britain. Lond. 1815,” p. 48.
- (16) “A Defence of the Landowners and Farmers of Great Britain. Lond. 1814,” p. 4, 5.
- (17) Malthus, “Inquiry into the Nature and Progress of Rent. Lond. 1815.”
- (18) H. Fawcett, “The Economic Position of the British Labourer, Cambridge and London 1865,” p. 178.
- (19) “On Combination of Trades. New Edit. Lond. 1834,” p. 42.

第二十章

- (1) David Buchanan in seiner Ausgabe von A. Smith's, "wealth of Nations" 1814, v. I, p. 417 Note.
- (2) James Anderson, "Observations on the means of exciting a spirit of National Industry etc. Edinb. 1777," p. 350, 351.
- (3) N. 2079 in "Royal Commission on Railways Minutes. 1867."
- (4) H. Carry. "Essay on the Rate of Wages; with an Examination of the Causes of the Differences in the Conditions of the Labouring Population throughout the World. Philadelphia 1835."

第七篇

第二十一章

- (1) Revenue.
- (2) Sismondi, "Nouveaux Principes d' Economie Politique," Vol I. p. 81, 82.
- (3) J. Mill, „Elements of Political Economy," Uebers. von Parissot, Paris 1823, p. 34.
- (3) John Cazenove in Note zu seiner Ausgabe von Malthus' „Definitions in Political Economy. London 1853," p. 22.
- (5) マルクスは此句を『労働者の生活資料は尙いまだ地球上の四分の一に於ては、資本家に依つて労働者に前貸されて居らぬ』と獨逸譯してゐるが、之では『四分の一』の意味が反對になる。此形に書き換へるならば『四分の三』とするが至當と思はれる。それでなければ第一、本文中の『只例外的にのみ』と一致しなくなる。
- (6) Richard Jones, "Textbook of Lectures on the Political Economy of Nations," Hertford 1852, p. 16.
- (7) "Reasons for a limited Exportation of Wool. Lond. 1677," p. 19.
- (8) "Reasons for the late Increase of the Poor Rates: or a comparative view of the prices of labour and provisions. Lond. 1777," p. 37.
- (9) Th. Hodgskin, "Labour Defended etc.", p. 13.
- (10) Ferrand, Motion on the Cotton Famine. H. o. C., 27th April, 1863.
- (11) 此一句獨逸譯は、『然し機械技師と貨幣とが手近にあるので、我々は常に、我々の要し得るよりも多数の工場主を、依つて造り出すべき、節儉、熱心、勤勉なる人々を見出すであらう』となつてゐる。誤譯であらう。

第六篇

第十七章

- (1) notwendiger oder natürlicher Preis.
- (2) Marktpreis.
- (3) "A Critical Dissertation on the Nature etc. of Value," p. 50, 51.
- (4) "Observations on some verbal Disputes in the Political Economy" p. 75. 76.
- (5) E. G. Wakefield in s. Edit. von A. Smith's, "Wealth of Nations, Lond. 1836," v. I., p. 231 Note.
- (6) Simonde de (i. e. Sismondi), "De la Richesse Commerciale. Genève 1803," t. I. p. 27.
- (7) value of labour.
- (8) "Do ut des, do ut facias, facio ut des, facio ut facias" 羅馬債務法の四箇の基本共式。

第十八章

- (1) Zeitlohn (time-wage)
- (2) Sir Edward West, "Price of Labour and Wages of Labour Lond. 1826," p. 67.
- (3) "Essay on the Application of Capital to Land. By a Fellow of Univ. College of Oxford. Lond. 1815."
- (4) N. W. Senior "Three Lectures on the Rate of Wages. Lond. 1830."
- (5) Stundenlohn (the hour's wage)
- (6) "Normal working day," "the day's work," "the regular hours of work."

- (7) Ueberzeit (overtime)
- (8) extra pay.
- (9) "Report, etc., relation to the Grievances complained of by the Journeymen Bakers" Lond. 1863, p. LII & ibid. Evidence, n. 479, 359, 27.

第十九章

- (1) Stücklohn (piece wage)
- (2) John Watts, "Trade Societies and Strikes, Machinery and Co-operative Societies. Manchester 1865," p. 52, 53.
- (3) John Watts, "Facts and Fiction of Polit. Econ. 1842."
- (4) T. J. Dunning, "Trade's Unions and Strikes Lond. 1869," p. 22.
- (5) "Abrégé élémentaire des Principes de l'Economie Politique," Paris 1796, p. 32.
- (6) Germain Garnier.
- (7) Verpachtung (sub-letting)
- (8) sweating-system.
- (9) à la journée ou à la pièce.
- (10) Cantillon, "Essai sur la Nature du Commerce en Général, éd. Amsterdam 1756," p. 185, 202.
- (11) "The Analysis of Trade, Commerce etc. by Philipp Cantillon, late of the City of London, Merchant."
- (12) H. Gregoir, "Les Typographes devant le Tribunal Correctionnel de Bruxelles. Bruxelles 1865," p. 9.
- (13) "Report and Evidence from the Select Committee on Petition respecting the Corn Laws."
- (14) "Reports from the Lords' Committee, on the State of the

第五篇

第十四章

- (1) drachum 古希臘の銀貨、約九片四分の三に當る。
- (2) Gängelband (leading-string) 昔、子供に歩行を仕込むために附した綱。いつまでも此綱に手引きされた子供は、容易に一人立ちが出来ぬと同じく、自然が餘りに豊饒なる時は、人間はいつまでも自然に縋るの意。
- (3) "England's Treasure by Foreign Trade. Or the Balance of our Foreign Trade is the Rule of our Treasure. Written by Thomas Mun, of London, Merchant and now published for the common good by his son John Mun. Lond. 1669." p. 181, 182.
- (4) "An Inquiry into the Present High Price of Provisions. Lond. 1767" p. 10.
- (5) Cuvier, „Discours sur les révolutions du globe ed. Hoefler. Paris 1863," p. 141.
- (6) "An Essay on the Governing Causes of the Natural Rate of Interest. Lond. 1750," p. 60.
- (7) Joseph Massey (Massie)
- (8) F. Show, "Die Erde, die Pflanze und der Mensch," 2. Aufl. Leipzig 1854, p. 148.
- (9) J. St. Mill, "Principles of Political Economy, Lond. 1868," p. 252-53, passim.
- (10) 邦譯本はミルの原文から直接譯したものであるから、此編輯者註は不要に歸する譯である。

第十五章

- (1) "Outlines of Political Economy etc. London. 1832," p. 67.

- (2) Grove, "On the Correlation of Physical Forces. London 1864."
- (3) Malthus, "Inquiry into the Nature and Progress of Rent. Lond. 1815" p. 48. n.
- (4) "Essays on Political Economy in which are illustrated the principal Causes of the Present National Distress. Lond. 1803," p. 248.

第十六章

- (1) Léonce de Lavergne.
- (2) „Dritter Brief an v. Kirchman von Rodbertus. Widerlegung der Ricardo'schen Theorie von der Grundrente und Begründung einer neuen Rententheorie. Berlin 1851.“
- (3) „Briefe etc. von Dr. Rodbertus-Jagetzow, herausgg. von Dr. Rud. Meyer, Berlin 1881," I. Bd., p. 111, 48. Brief von Rodbertus.
- (4) A. de Laborde, "De l'Esprit de l'Association dans tous les intérêts de la Communauté. Paris 1818"
- (5) Turgot, "Reflexions sur la Formation et la Distribution des Richesses," p. 11.

- (73) The Borough 倫敦行政區内テムス河南岸にあるサウスワ
-ク市邑。
- (74) cottage-factory.
- (75) cheap labour.
- (76) Hausindustrie.
- (77) slaughter-house.
- (78) mistress's house.
- (79) lace school.
- (80) straw-plait school.
- (81) natural school.
- (82) truck system.
- (83) the poorest of the poor.
- (84) John Bellers, "Essays about the Poor, Manufactures etc." p.
9.
- (85) "Report of Proceedings etc. Lond. 1863," p. 63, 64.
- (86) National Association for the Promotion of Social Science.
- (87) mysteries (mystères)
- (88) Dugald Stewart's Works. Hamilton's Ed., Vol. VIII, p. 327-
328.
- (89) Etienne Boileau, "Livre des métiers."
- (90) F. Engels u. Karl Marx "Manifest der Kommunistischen
Partei. Lond. 1848," p. 5.
- (91) A. Corbon, "De l'enseignement professionnel." 2ème. p. 50.
- (92) écoles d'enseignement professionnel.
- (93) Ne sutor supra crepidam.
- (94) Johan Pernard Basedow. 1723 年漢堡に生る、熱心なる教育

- 改良論者。其教育法はルソーの原理に従ひたるもの、此原理に
則りデサウ市に師範學校を設立したが失敗に歸した。
- (95) John Bellers, "Proposals for raising a Colledge of Industry
etc. Lond. 1696," p. 12, 14, 18.
- (96) Senior, "Social Science Congress," p. 55, 56.
- (97) "Report from the Select Committee on Mines, together
with.....Evidence, 23 July 1866."
- (98) Vissering „Handboek van Praktische Staatshuishoudkunde.
1860-62.“
- (99) Dr. Wm. von Hamm, „Die landwirthschaftliche Geräthe und
Maschinen Englands, 2. Auf. 1856.“
- (100) 此一句、英譯本では【工藝、及び種々なる行程の、社會的
全一體への結合を展開する】(.....developes technology and the
combining together of various processes into a social whole etc.)
となつてゐる。誤譯であらう。
- (101) Liebig, „Die Chemie in ihrer Anwendung auf Agrikultur
und Physiologie. 7. Auflage 1862.“

- (38) Alexander Redgrave, Factory Inspector in the *Journal of Arts*, 5th January, 1872.
- (39) "Statistical Abstract for the U. Kingd." Nos. 8 and 13. Lond. 1861 and 1866.
- (40) An'omat.
- (41) Autokrat.
- (42) minder.
- (43) Sisyphus 地獄の刑場で、岩石を山に轉ばし上げ落つるを又も轉ばし上ぐるよう命ぜられたと云ふ希臘の王。
- (44) G. de. Molinari, "Études Économiques," Paris 1846.
- (45) master.
- (46) "The Master Spinners' and Manufacturers' Defence Fund. Report of the Committee. Manchester 1854," p 17.
- (47) Dogberry 沙翁のマッチ、アドー、アバウト、ナッシング中に出る頑固一徹な、夜衛。茲では普通名詞に用ゐらる。
- (48) John Houghton, "Husbandry and Trade improved. Lond. 1727."
- (49) "The Advantages of the East India Trade 1720."
- (50) Rev. Nathaniel Forster, "An Inquiry into the Causes of the present High Prices of Provisions," 1767, p. 61, 62.
- (51) Bandmühle.
- (52) Schnurmühle.
- (53) Mühlenstuhl.
- (54) Luddite movement. ライセスターシャー州の白痴者 Ned Ludd に因める機械破壊運動。此暴動は一八一二年から全六一年迄続いた。
- (55) Boxhorn, "Institutions Political 1663."

- (56) Piercy Ravenstone, "Thoughts on the Funding System and its Effects. Lond. 1824," p. 15.
- (57) Bauernlegen.
- (58) a temporary inconvenience.
- (59) "A Prize Essay on the comparative Merits of Competition and Co-operation. Lond. 1834," p. 29.
- (60) "Royal Commission on Railways. Minutes of Evidence. n. 17,862. & 17,863 Lond. 1867"
- (61) Gaskell, "The Manufacturing Population of England. Lond. 1833," p. 3, 4.
- (62) "An Inquiry into those Principles respecting the Nature of Demand" etc. Lond. 1821, p. 72.
- (63) MacCulloch, "Principle of Political Economy." Lond., 1830, p. 166.
- (64) A. Thiers, "De la Propriété."
- (65) 石炭は労働要具ではない。労働対象である。随つて此「労働要具」は當然に「生産機關」と改むるか、さもなければ「石炭」の一語を削除すべきである。(第五章第一節参照)
- (66) 全上。
- (67) Zusammensetzung des Kapitals.
- (68) "Des Systèmes d'Economie Politique etc. Par M. Ch. Ganilh," 2ème éd, Paris 1821, t. II, p. 224. ch. ib. p. 212.
- (69) "Trade Societies of England"
- (70) マルクスの獨逸譯は「二志六片以上に及んだ」となつてゐる。
- (71) experimenta in corpore vili.
- (72) Fortunatussäckel フォルトナツスは獨逸傳説中の人物にして意の儘に錢を吐き出す財布を携へてゐた。

- (42) Isokrates, Busiris, c. 8.
 (43) "Essay on Trade and Commerce," Lond. 1770.

第十三章

- (1) Ch. Hutton, "Course of Mathematics."
 (2) Claussen's Circular Loom.
 (3) John Wyalt.
 (4) Wilhelm Schulz, „Die Bewegung der Produktion. Zürich 1843," p. 38.
 (5) Giovanni Battista Vico.
 (6) Bewegungsmachine (motor mechanism)
 (7) Transmissionsmechanismus.
 (8) Werkzeugmaschine (tool machine)
 (9) Arbeitsmaschine (working machine)
 (10) A. Redgrave in "Reports of the Insp. of Fact. 30th Apr. 1856," p. 36.
 (11) "Reports of Inspectors of Factories for 31st. October 1856," p. 16.
 (12) self-acting mule.
 (13) slide rest
 (14) self-actor.
 (15) self-acting stop.
 (16) „The Industry of Nations. Lond. 1855," Part II, p. 239.
 (17) Benutzung und Abnutzung.
 (18) indizierte Pferdekräfte (indicated horsepower)
 (19) Karl Friedlich von Haller, „Restauration der Statwissen-

schaft "

- (20) Descartes, "Discours de la Méthode."
 (21) Sir Dudley North, "Discourses upon Trade" (1691)
 (22) feeder.
 (23) "Report of the Social Science Congress at Edinburgh. Oct. 1863."
 (24) Th. de Quincey, "The Logic of Politic Econ. Lond. 1845," Note to p. 147.
 (25) "Public Economy Concentrated. Carlisle 1838," p. 56.
 (26) certifying surgeon.
 (27) undertaker (Gangmeister)
 (28) "Ten Hours' Factory Bill. The Speech of Lord Ashley, March 15, Lond., 1844," p. 20.
 (29) Robert Owen, "Observations on the Effects of the Manufacturing System. 2nd ed. Lond. 1817."
 (30) J. Fielden, "The Curse of the Factory System. Lond. 1836," p. 11.
 (31) R. Torrens, "On Wages and Combination. Lond. 1834," p. 63.
 (32) Senior. "Letters on the Factory Act. Lond. 1837," p. 13, 14.
 (33) potenzierte Arbeit. 譯本第一冊第二一頁を見よ。
 (34) 希臘神話中の美術神。
 (35) 希臘神話中の神、金屬細工を善くす。
 (36) F. Biese, „Die Philosophie des Aristoteles." Zweiter Band. Berlin 1842, p. 408.
 (37) Gedichte aus dem Griechischen. übersetzt von Christian Graf zu Stolberg. Hamburg 1782.

- (5) Diodorus Siculus, „Historische Bibliothek“, I. I., c. 74.
- (6) “Historical and descriptive Account of Brit. India etc. by Hugh Murray, James Wilson etc. Edinburgh 1832”, v. II, p. 449.
- (7) *établissement*.
- (8) “Report from Geneva on the Watch Trade” in “Reports by H. M.’s Secretaries of Embassy and Legation on the Manufactures, Commerce etc. No. 6. 1833”
- (9) “The Advantages of the East India Trade” p. 106.
- (10) “The Industry of Nations. Lond. 1855”, Part. II, p. 200.
- (11) Ch. Babbage, “On the Economy of Machinery,” Lond., 1832, ch. XXI, p. 172, 173.
- (12) “hole”
- (13) “Children’s Employment Commission. 4th Report,” 1865, p. 247.
- (14) Ure, “Philosophy of Manufacture,” p. 19-23, *passim*.
- (15) Storch, „Cours d’Econ. Pol“ Pariser Ausgabe, t. I, p. 173.
- (16) Berkeley, “The Querist,” 1750, § 520.
- (17) A. Ferguson, “History of Civil Society,” Edinb., 1750, part, IV, sect. II, p. 285.
- (18) B. de. Mandeville, “Fable of the Bees, or Private Vices, Public Benefits.”
- (19) “Labour defended against the Claims of Capital. Lond. 1825” p. 25.
- (20) Lieut. Col. Mark Wilks, “Historical Sketches of the South of India. Lond. 1810-17,” v. I, p. 118-20.
- (21) George Cambell, “Modern India. Lond. 1852.”
- (22) Th. Stamford Raffles, late Lieut. Gov. of Java, “The History of Java. Lond 1817,” v. II, p. 285.

- (23) Storch, „Cours d’Econ Polit.” Pariser Ausg t. I, p. 250, 251.
- (24) W. Thompson, “An Inquiry into the Principles of the Distribution of Wealth. Lond. 1824,” p. 274.
- (25) J. D. Tucket, “A History of the Past and Present State of the Labouring Population. Lond. 1846,” v. I, p. 149.
- (26) P. Mazzini. “De morbis *arificum*.”
- (27) “Encyclopédie des Sciences Médicales. 7me Dis. Auteurs Classiques”
- (28) “Hygiène physique et moral de l’ouvrier dans les grandes villes en général, et dans la ville de Lyon en particulier. Par le Dr. A. L. Fonterel. Paris 1858.”
- (29) „Die Krankheiten, welche verschiedenen Ständen, Altern und Geschlechtern eigentümlich sind. 6. Bänd. Ulm 1860.”
- (30) Twickenham Economic Museum.
- (31) Eduard Reich M. D., Ueber die Entartung des Menschen,“ Erlangen 1868.
- (32) D. Urquart, “Familiar Words. Lond. 1855,” p. 119.
- (33) “Advantages of the East India Trade” etc. Lond, 1720.
- (34) Cesare Beccaria, “Elementi di Econ. Publica,” ed Custodi, Part. Moderna, t. XI, p. 28.
- (35) James Harris, “Dialogue concerning Happiness Lond. 1741.”
- (36) James Harris, “Three Treatises etc. 3 ed. Lond. 1772”.
- (37) division of employments.
- (38) Homer, “Odyssee” XIV, 228.
- (39) Archilochus, “Sextus Empiricus.”
- (40) Plato, Republik I. 2. ed. Laiter, Orelli etc.
- (41) Xenophon, Cyropaedia I. VIII, c. 2.

burgh, v. III 1855, "Lectures on Polit. Econ." p. 318.

(15) R. Jones l. c. Lecture III.

第十一章

(1) Manufacture (Manufaktur)。此語は拉典語の manus (手) 及び factus (製したる) より成り、機械工業の正反對のものを稱したのであるが、さればと云つて單なる手工業 (handicraft) と混同すべきでない。歴史的には手工業に基くギルドの仲間を外れた職人の間に出来た一の仕組であつて、一の資本主或は商人が資本を下ろして多數の職人を一所に集め銘々に一部分の仕事をさせて、資本主が其全體を管理すると云ふ仕組であつて、ギルド手工業と機械工業 (工場制度) との中繼を成すものである。此意味で、私は曾て之を『工場手工業』と譯した (拙譯マルクス資本論解説第二四九頁参照)。マニユファクチャーの最も重要な一部門を成したものは織造工業である。そこで織物工業のことをマニユファクチャーと呼ぶやうになつた。此語法は今でも行はれてゐる。

(2) Arbeitsfertigkeit.

(3) Kooperation.

(4) "Concours de forces"

(5) Massenkraft.

(7) tun. 英國往時の量名、二百五十二ガロンに當る。

(6) E. G. Wakefield, "A View of the Art of Colonization. Lond. 1849", p. 168.

(8) John Bellers, "Proposals for raising a colledge of industry. Lond. 1696," p. 21.

(9) Lebensgeister (animal spirits).

(10) "An Enquiry into the Connection between the present Price

of Provisions and the Size of Farms. By a Farmer. Lond. 1773" p. 7, 8.

(11) F. Skarbek, "Théorie des richesses sociales 2 ème éd. Paris 1840," t. I. p. 96, 98.

(12) Liebig, „Ueber Theorie und Praxis in der Landwirthschaft. 1856," p. 23.

(13) Bengal Hurkaru. Bi-Monthly Overland Summary of News. 22nd July 1861.

(14) R. Jones, "An Essay on the Distribution of Wealth," part I. On Rent. Lond. 1831, p. 191.

(15) Gattungsvermögen.

(16) G. R. Carli, Note zu P. Verri, l. c. t. XV, p. 196.

(17) immediately. マルクスの獨逸譯では aussencrdentlich (非常に) となつてゐる。

(18) Dirigent, manager.

(19) Arbetisaufseher, foreman, overlooker, contremaître.

(20) James Steuart, "Prince. of Pol. Econ. Lond. 1767," v. I, p. 167, 168.

(21) R. Jones, "Textbook of Lectures on Polit. Econ. of Nations," p. 77, 78.

(22) Berkeley, "The Querist", Lond. 1750, p. 56, § 521.

第十二章

(1) A. Blanqui, "Cours d'Econ. Industrielle. Recueilli par A. Blaise. Paris (1838-39)", p. 79.

(2) Produktionsmechanismus.

(3) "The Advantages of the East India Trade. Lond. 1720" p. 71.

(4) Kaste. 族姓的階級。

(109) juristischer Rattenkönig (法律上の合尾鼠)。Rattenkönig
とは生れつき尾にて癒合された数匹の鼠のこと。

(110) Quantum mutatus ab illo!

第九章

- (1) 古代希臘の有名なる數理的哲學者アルキメデスは「我れに支點を與へよ。然らば我れは世界を動かさん」と壯語したとか。即ち本註の皮肉は之れに因んだものである。
- (2) カウツキ-編纂「餘剩價值學說史」。
- (3) "An Essay on the Political Economy of Nations. London 1821." p. 47, 49.
- (4) Kostenpreis.
- (5) 原文は「此労働者が」となつてゐるが前に労働者と云ふ言葉がなく辻褃が合はぬ故、かく意譯す。
- (6) Zunftwesen.
- (7) "An Enquiry into the Connection between the Price of Provisions, and the Size of Farms etc. By a Farmer. London 1773," p. 12.
- (8) "Text book of Lectures on the Polit. Economy of Nations. By the Rev. Richard Jones. Hertford 1852" Lecture III, p. 39.
- (9) Kopp, „Entwicklung der Chemie, München 1878," S. 709 and 716.
- (10) Schorlemmer, "Rise and Progress of Organic Chemistry. London 1879," p. 51.
- (11) Die Gesellschaft Monopolia.

第四篇

第十章

- (1) William Petty, "Political Anatomy of Ireland", 1672, p. 64.
- (2) Turgot, "Réflexions" etc. Oeuvres ed. Daire, t. I, p. 16.
- (3) Malthus, "Inquiry into etc. Rent." Lond. 1815, p. 48 Note.
- (4) Sismondi, "Études etc" t. I, p. 22.
- (5) absoluter Mehrwerth.
- (6) relativer Mehrwerth.
- (7) "Outlines of Polit. Econ. Lond. 1832", p. 49, 50.
- (8) potenzierte Arbeit.
- (9) "The Advantages of the East-India Trade to England. Lond. 1720", p. 67.
- (10) "Considerations concerning taking off the Bounty on Corn exported etc. Lond. 1752" p. 7.
- (11) "A prize Essay on the comparative merits of Competition and Co-operation. Lond. 1834", p. 27.
- (12) "Ils convenient que plus on peut, sans préjudice, épargner de frais ou de travaux dispendieux dans la fabrication des ouvrages des artisans, plus cette épargne est profitable par la diminution des prix de ces ouvrages. Cependant ils croient, que la production de richesse qui résulte des travaux des artisans consiste dans l'augmentation de la valeur vénale de leurs ouvrages" (Quesnay, "Dialogues sur le Commerce et sur les Travaux des Artisans", p. 188, 189)
- (13) J. N. Bidaut, "Du Monopole qui s'établit dans les arts industrielles et le commerce. Paris 1828", p. 13.
- (14) Dugald Stewart: Works ed. by Sir W. Hamilton. Edin-

つてゐる。

- (77) W. Petty, "Political Anatomy of Ireland, 1672, edit. 1691," p. 10.
- (78) "A Discourse on the Necessity of Encouraging Mechanic Industry. Lond. 1689," p. 13.
- (79) Macauldy, "History of England," vol. I. p. 419.
- (80) "An Essay on Trade and Commerce, containing Observations on Taxation etc. London 1770."
- (81) "Consideration on Taxes. London 1765."
- (82) Jacob Vanderlint. "Money answers all things. London 1734."
- (83) Rev. Nathaniel Forster, D. D., "An Enquiry into the Causes of the Present Rise of Provisions. London 1766."
- (84) Postlethwayt "Universal Dictionary of Trade and Commerce."
- (85) Ditto, "Great Britain's Commercial Interest explained and improved 2nd edit. London 1755."
- (86) Postlethwayt, l. c., "First Preliminary Discourse". p. 14.
- (87) マルクスの獨逸譯は「怠惰、放逸、亂行及び浪漫的な自由の夢」云々となつてゐる。
- (88) マイスタ・エツカルト (Meister Eckart) に因んだもの、彼れは中世紀に於ける獨逸の思辯的、神秘的哲學者で、ドミニカン派の有力な學者であつた。1325年異端の廉で訴へられ、後ち一旦釋放されたが、彼れの死後また其著述は異端の故を以て禁壓された。
- (89) paupers.
- (90) Des classes ouvrières France, pendant l'année 1848. Par M. Blanqui."
- (91) Judgement of Mr. J. H. Otwey, Belfast, Hilary Sessions,

County Antrim 1860."

- (92) Department du Nord.
- (93) Central Board of the Commission.
- (94) Juggernaut (Juggernaut car) 印度ワリシユナ神の偶像を載せた車、年々此車を引き廻り、之に轢殺さるれば極樂に行けると信じて信徒自ら車下に身を投じたと云ふ。
- (95) Charter.
- (96) Courtes Séances.
- (97) Court of Exchequer. 今は高等法院の刑事裁判所 Division of King's Bench に併合されてゐる。
- (98) E. Engels, „Die englische Zehnstundebill”.
- (99) "Neue Rh. Zeitung. Politisch-oekonomische Revue. Aprilheft 1850," p. 13.
- (100) hand-mule spinners.
- (101) self-actor minders.
- (102) "Factory Regulations Acts (6 Aug. 1859).
- (103) "Suggestions for Amending the Factory Acts to enable the Inspectors to prevent illegal working, now become very prevalent."
- (104) ein parlamentarischer Abort 英譯は a parliamentary abortion (議會的流産となつてゐる)。
- (105) die Tapete (複數 Tapeten) 英譯本では之れを das Tapet (carpet=絨氈) の意味に誤譯してゐる。
- (106) Court of Common Pleas 1875年廢止。
- (107) Peter Paul Rubens フランダースの大畫家、『人間活動のどよめきと精力』とを表現するに非凡の技能を有してゐた人。
- (108) häusliche Industrie 家内工業 (Hausindustrie) と混同すべからず。

- (43) George Read, "The History of Baking Lond. 1848," p. 16.
- (44) The case of our English Wool etc. p. VIII.
- (45) Miller-bakers.
- (46) マルクスの獨逸譯は單に『六日分』となつてゐる。
- (48) ウリセスとも云ふ。ホーマー叙事詩オディシー中の人物でトロイの圍より歸る途すがら色々の冒險をする。本文の比喩は此冒險旅行中の出來事に因んだものである。
- (49) Ilius americana in nuce.
- (50) 労働者に対する同情も其實奴隷制度の辯護にすぎないの意。
- (51) der nominelle Arbeitstag 英譯は normal working-day (標準労働日) となつてゐる。
- (52) マルクスの獨逸譯は『變化のある』となつてゐる。誤譯であらう。
- (53) マルクスの獨逸譯は『十五歳以下』となつてゐる。
- (54) deinen Grund? 之れは Kannst du deinen Grund geben? (君の理由を與へ得るか) を省略したものと思はれる。或は Giebt es deinen Grund? (君の理由があるか) を省略したのかも知れぬ。それならば『君の理由が』とすべきである。
- (55) Exeter Hall 倫敦にあるキリスト教青年會本部の建物。
- (56) in cute curanda.
- (57) obsequium ventris istis perniciosius est.
- (58) human chattel マルクスは之れを Menschenvie (人畜) と獨逸譯してゐるが、chattel (家財) を cattle (家畜) とハキ違へたのでは無からうか。括弧して Human chattle としてゐる所を見るとますます怪しい。
- (59) 此のところマルクスの獨逸譯は『我々が奴隷階級に於て最も粗末な食物と最も骨の折れる、そして最も間斷なき勞役との

- 外に尙、其人員の一部が過度勞働と睡眠不足及び休養不足との徐々たる苛責によつて、年々直接に破壊されて居るのを見る』云々となつてゐる。
- (60) John Ward, "History of the Borough of Stoke-upon Trent. London 1843." p. 42.
- (61) マルクスは此所を斯う譯してゐる。『或工場主代理員は救貧所からの貧兒及び孤兒たちの供給を再び許可して下さつと、貧民救助法局長ヰイリアース氏に頼みこんだ。』
- (62) Après moi le déluge! 洪水は我があとに!
- (63) "England and America, London, 1833. vol. I, p. 55, By E. G. Wakefield."
- (64) W. T. Thornton, "Overpopulation and its remedy" l. c. p. 74, 75.
- (65) "Times." Nov. 5th, 1861.
- (66) West Riding.
- (67) "Report of the Registrar-General," for October, 1861.
- (68) General Statutes of Massachusetts. 63. ch. 12.
- (69) State of New Jersey. An act to limit the hours of labour etc., 61 and 2.
- (70) Revised Statutes of the State of Rhode Island etc. ch. 39, §23, 1st July 1857.
- (71) Statute of Labourers (23 Edward III, 1349)
- (72) Vieruh brod.
- (73) "Sophism of Free Trade" 7th edit. Lond. 1850," p. 205.
- (74) Chronicon Pretiosum etc. By Bishop Fletwood. 1st edit. London 1707." and edit. London 1745.
- (75) マルクスの獨逸譯は『朝の一時まで』となつてゐる。
- (76) マルクスの獨逸譯では『上記の租税の十分の一は』云々と

- (12) *Réglement organique.*
- (13) *Jobagie.*
- (14) E. Regnault, "Histoire politique et sociale des Principautés Danubiennes. Paris 1855."
- (15) J. v. Liebig, „Die Chemie in ihrer Anwendung auf Agrikultur und Physiologie. 1862, 7. Aufl.“ Band I, p. 117, 118.
- (16) F. Engels, „Die Lage der arbeitenden Klasse in England. Leipzig. 1845.“
- (17) Children's Employment Commission.
- (18) „Suggestion etc. by Mr. L. Horner, Inspector of Factories,“ im „Factories Regulation Act. Ordered by the House of Commons to be printed 9 Aug. 1859.“ p. 4, 5.
- (19) "Report of the Inspector of Factories for the half year, October, 1856." p. 35.
- (20) 此一句、獨逸譯は餘りに意譯しすぎてゐる。曰く『機械の運轉が止んだ後、職工たちが尙工場に残つてゐるとすれば、それは畢竟午前六時と午後六時との間に、即ち法定労働時間内に斯様な仕事を爲すべき何等の猶豫時間が彼等に許されてゐないからに外ならぬのである』。
- (21) *shoddy-hole.*
- (22) *nibbling and cribbling at meat-times.*
- (23) *Wehrwolf* 狼に變じた希臘神話中の人物。
- (24) John Wade, "History of the Middle and Working Classes. 3rd ed. Lond. 1835." p. 114.
- (25) Sir M. Eden, "History of the Poor. Lond. 1799."
- (26) *Public Health, 3rd Report I. 112—113.*
- (27) 此所は英譯では『前者にあつては死亡總數の半分以上、後者にあつては其の約五分の二は製陶工間の肺病の結果である』と

- なつてゐて意味が全く違ふ。元來此句の材料は英吉利から取つたものであるから、恐らく英譯の方が正しいのであらう。
- (28) *Public Health. 3rd Report etc. p. 102, 104, 105.*
- (29) *Children's Employment Commission. 1863. p. 24, 22 u. XI.*
- (30) *Crispinus* (單數 *Crispin*). 西歴前二八七年羅馬官憲のために捕れて處刑された靴匠の守護聖者。
- (31) *pluralis majestatis* 王侯や新聞記者などが自分のことを複数形に言ふ話法。日本では陛下は御自身のことを『朕』と仰せられるが、西洋では『我等』(we, wir) と云ふ。論文などで『我等』『吾人』『我々』など云ふのは内外同様である。
- (32) *The Borough* 倫敦行政區内テームス河南岸にあるサウスワーク市邑。
- (33) *Dr. Ha-sal, "Adulterations detected."*
- (34) *sophisticate* は『詭辯す』の意より轉じて『贋造す』となりたるもの、此の兩意味を念頭に置かなくては次の皮肉が呑み込めない。
- (35) 『偽造術』と『詭辯術』との双方にかゝる。
- (36) 詭辯哲學の創始者の一人。
- (37) 純粹實在のみを眞實のものとして肯定し、有限的、現象的な一切を空幻視する古代希臘の哲學派。
- (38) *Ronard de Card, "de la falsification Substances sacramentelles. Paris 1856."*
- (39) *Royal Commissioner of Inquiry.*
- (40) "Report etc. relating to the Grievances. Complained of by the Journeymen bakers etc. Lond. 1862" and "Second Report etc. Lond. 1863."
- (41) *under-elling masters.*
- (42) マルクスの獨逸譯は『日曜の夜』となつてゐる。

- (5) nothwendige Arbeit.
- (6) 邦譯本 290 頁。
- (7) Surplusarbeitszeit.
- (8) Mehrarbeit (surplus labour).
- (9) Gottsched 獨逸の貴族で文學者。1700年ケーニヒベルク附近に生る。ライプチヒで哲學及び文學の教授を勤めた人で純粹獨逸語の保護を主張し又脚本の改良を主張した。彼は生氣のないゴソゴソした文風を獎勵し、自身も亦そう云ふ冷たい文章を書いた。
- (10) gewissenhaft 英譯では此語を wissenschaftlich (科學的)と見誤り scientific と譯してゐる。
- (11) Mule-Spindel.
- (12) Vorspinnmaschinerie.
- (13) Rates.
- (14) Taxes 此語は學術上租税全體にも各箇の租税にも使用されるが、制度上では通常地租及び所得税にのみ用ゐられる。
- (15) 第三卷に當る。
- (16) Nassau W. Senior, "Letters on the Factory Act, as it affects the cotton manufacture. London 1837.
- (17) 毎日の労働時間を十一時間半と假定するから。
- (18) ドイツ譯は『總益(!)一萬五千磅中の五千磅』となつてゐる。
- (19) Leonhard Horner, "A Letter to Mr. Senior etc. Lond. 1837."
- (20) Fabrikinspektor (inspector of factories).
- (21) Fabrikcensor (censor of factories).
- (22) Stimmen は『投票』を意味し又『聲』を意味す。Hände は『職工』を意味し又『手』を意味する。聲と手とを對立させた所に一流の洒落が現はれてゐるが、邦語では其味を十分に示すことが出来ぬ。

- (23) Reports of the Insp. of Factory for the half-year ending 30th April 1855.
- (24) Wirth, Schulze. 共に複數である。前者は經濟學者マックスキルト (Max Wirth) 後者はシュルツエ・ゲファニーツ (Schulze-Gävernitz) シュルツエ・デーリツチ (Schulze-Delitzsch) 等に因んだもの、普通名詞として前者は酒場の亭主、後者は村長を意味するので双方にかけて味よと餘程面白い罵倒語になる。
- (25) Mehrprodukt (surplus produce, prodint net).
- (26) Arthur Young, "Political Arithmetic. London 1774," p. 47.
- (27) Th. Hopkins, "On Rent of land etc. Lond. 1823," p. 126.
- (28) Arbeitstag (Working-day).

第八章

- (1) "An Essay on trade and commerce, containing Observations on Taxation etc. Lond. 1770." p. 73.
- (2) little shilling men 志級の小錢を出入してゐる小商人。
- (3) "D'obtenir du capital dépensé la plus forte somme de travail possible."
- (4) J. G. Courcelle-Seneuil, "Traité théorique et pratique des entreprises industrielles. 2éme édit. Paris 1857." p. 63.
- (5) "An Essay on Trade & Commerce etc." p. 47 and 153.
- (6) N. Linguet, "Théorie des Loix Civiles etc. Lond. 1767." t. II. p. 466.
- (7) καλὸς κἀγαθός
- (8) Civis romanus.
- (9) Bojar.
- (10) Diodorus Siculus, Historische Bibliothek, Buch 3. c. 13.
- (11) Ager Publicus.

- (20) extraktive Industrie.
- (21) Halbfabrikat.
- (22) Stufenfabrikat.
- (23) begriffs- und berufsmässige Funktionen.
- (24) Cincinnatus 西歴前 460 年前の頃ローマの執政官たりし人物、後ち退職歸郷して田園生活を営む。普通名詞として田園に隠退して風月を友とする偉人の意味に用ゐられる。
- (25) R. Torrens, "An Essay on the Production of Wealth etc." p. 70, 71.
- (26) Kapitalisten in spe.
- (27) zweckmässig.
- (28) Cherbuliez, "Riche ou Pauvre, edit. Paris 1841," p. 53, 54.
- (29) James Mill, "Elements of political Economy. London 1821," p. 70, 71.
- (30) qu'on aime pour lui-même.
- (31) Werthbildungsprozess.
- (32) John Ramsay MacCulloch, 1789 年、スコットランドの小市ホイツトーンに生れた經濟學者、『經濟原論』の著者として又た商業及び地理に関する諸典の編纂者として知られてゐる。
- (33) Martin Luther, „An die Pfarherrn, wider den Wucher zu predigen etc. Wittenberg 1540.”
- (34) "tout pour le mieux dans le meilleur des mondes possibles.
- (35) J. C. Cairns, "The Slave Power, Lond. 1862," p. 43 sqq.
- (36) Olmsted, "Sea-Bord Slave States."
- (37) potenzierte Arbeiter 『高級労働者』或は『熟練労働者』と同意義。
- (38) S. Laing, "National Distress etc. Lond. 1844."

- (39) James Mill, "Colony." Supplement to the Encyclop. Brit. 1831.
- (40) "Outlines of Polit. Economy. Lond. 1832," p. 22, 23.

第六章

- (1) "An Essay on the Polit. Econ. of Nations. Lond. 1821." p. 13.
- (2) "Observations on certain verbal disputes in Pol. Econ. particularly relating to Value, and to Demand and Supply. Lond. 1821," p. 54.
- (3) wiseacre.
- (4) services productifs.
- (5) Edmund Burke, "Thoughts and Details on Scarcity, originally presented to the Rt. Hon, W. Pitt in the Month of November, 1795, edit. London 1800," p. 10.
- (6) F. Weyland, "The Elements of Political Economy, Boston 1853," p. 31, 32.
- (7) konstantes kapital.
- (8) variables Kapital.
- (9) Le Trosne, "De l'Intérêt Social Physiocrates ed. Daire, Paris 1846," p. 893.

第七章

- (1) Malthus, "Principles of Political Economy. 2nd ed. London 1836," p. 269.
- (2) 第三卷に當る。
- (3) Rate des Mehrwerths.
- (4) nothwendige Arbeitszeit.

- (71) Th. Hobbes. "Leviathan" in "Works edit. Molesworth. Lond. 1839-44," v. III. p. 76.
- (72) Lebensansprüche.
- (73) villicus. 農業管理人。
- (74) Th. Mommsen, „Römische Geschichte 1856," p. 810.
- (75) W. F. Thornton, "Overpopulation and its Remedy Lond. 1846."
- (76) R. Torrens, "An Essay on the external Corn Trade. Lond. 1815." p. 62.
- (77) Rossi, "Course d'Econ. Polit. Bruxelles 1812." p. 370.
- (78) Sismondi, "Nouv. Princ. etc.," t. I. p. 112.
- (79) "An Inquiry into those Principles respecting the Nature of Demand etc.," p. 104.
- (80) Ch. Ganilh, "Des Systèmes des de l'Écon. Polit. 2ème edit. Paris 1821," t. I, p. 150.
- (81) Storch, "Cours d'Econ. Polit. Petersbourg, 1815," t. II. p. 37.
- (82) p. XXXII. im „Report" des Regierungs-Kommissairs H. S. Tremeneere über die „Grievances complained of by the journeymen bakers etc. Lond. 1862."
- (83) "Committee of 1855 on the Adulteration of Bread."
- (84) Dr. Hassall, "Adulterations Detected," 2nd edit. Lond. 1862.
- (85) "Sixth Report," on "Public Health" by "The Medical Officer of the Privy Council etc. 1864," p. 264.
- (86) Truck-system.
- (87) "Children's Employment Commission, III. Report. Lond. 1864," p. 38, n. 192.

第三篇

第五章

- (1) Arbeitsprocess.
- (2) Verwerthungsprocess.
- (3) Naturstoff.
- (4) aneignen.
- (5) Potenzen.
- (6) thierartig instinktmässige etc.
- (7) das Natürliche.
- (8) Anstrengung.
- (9) James Steuart, "Principles of Polit. Econ. edit. Dublin 1770." v. I. p. 116.
- (10) Machtmittel.
- (11) abarbeiten.
- (12) Hegel, „Encyklopädie, Erster Theil. Die Logik. Berlin 1840," p. 382.
- (13) a tool-making animal.
- (14) Turgot, "Réflexions sur la Formation et la Distribution des Richesses," p. 766.
- (15) gegenständliche Bedingung.
- (16) locus standi.
- (17) Wirkungsraum (field of employment).
- (18) Sie (die Arbeit) ist vergegegenständlicht und der Gegenstand ist verarbeitet.
- (19) Produktionsmittel.

- (37) Kaufmannskapital.
 (38) industrielles Kapital.
 (39) zinstragendes Kapital.
 (40) im Lapidalstil. 『簡潔な文體で』の意。
 (41) Destutt de Tracy, "Traite de la Volonté et de ses effets, Paris 1826," p. 68.
 (42) "Traité d'Economie Politique."
 (43) Mercier de la Rivière, "L'ordre naturel et essentiel. Physiocrates. ed. Daire II. Partie," p. 544.
 (44) Le Trosue, "De l'Intérêt social. Physiocrates. ed. Daire, Paris 1846," p. 906.
 (45) Dove è equalità, non è lucro.
 (46) Galiani, "Della Moneta," in Custodi. Parte Moderna t. IV. p. 244.
 (47) Condillac, "Le Commerce et le Gouvernement" (1776) Edit. Daire et Molinari in den "Mélanges d'Economie Politique. Paris 1817," p. 267.
 (48) Wilhelm Roscher, „Die Grundlagen der Nationalökonomie. Dritte Auflage, 1858."
 (49) S. P. Newmann, "Elements of Polit. Econ. Andover and New-York 1835." p. 175.
 (50) "The Essential Principles of the Wealth, of Nations etc. Lond. 1797." p. 66.
 (51) power and inclination (Vermögen und Neigung).
 (52) R. Torrens, "An Essay on the Production of Wealth. Lond. 1821," p. 349.
 (53) G. Ramsay, "An Essay on the Distribution of Wealth, Edinburgh, 1836," p. 184.

- (54) "An Inquiry into those principles respecting the Nature of Demand and the Necessity of Consumption, lately advocated by Mr. Malthus" etc., Lond. 1821, p. 55.
 (55) trotz des besten Willens.
 (56) 英吉利最小の舊貨。一片の四分の一に當る。
 (57) 英吉利の舊金貨。二十一志に當る。
 (58) F. Wayland, "The Elements of Pol. Econ." Boston, 1853, p. 168.
 (59) Handelskapital.
 (60) Wucherkapital.
 (61) G. Opdyke, "A Treatise on Polit. Econ." New York 1851.
 (62) Benjamin Franklin, Works, vol. II, edit. Sparks in: "Positions to be examined concerning National Wealth."
 (63) Hic Rhodus, hic salta! 或一人がローズ島 (小亞細亞を距る十二メートル地中海に横はる風光明媚の小島) では見事に踊つたと誇りに述べた。それを聞いて他の一人がローズ島は此所にある。論より證據、茲で踊つて見よと言つた (イソップ)。つまり餘剩價値の謎が解けると言ふなら茲で解いて見よとの意。
 (64) David Ricardo, "Principles of Political Economy and Taxation. 3 ed. London 1821," p. 267.
 (65) Wertschöpfung.
 (66) Arbeitsvermögen.
 (67) Arbeitskraft.
 (68) Peonage.
 (69) Juarez.
 (70) Hegel, „Philosophie des Rechts. Berlin 1810." p. 104. § 67.

第二篇

第四章

- (1) Goldvermögen.
- (2) Kaufmannskapital.
- (3) Wucherkapital.
- (4) Nulle terre sans seigneur.
- (5) L'argent n'a pas de maître,
- (6) Mercier de la Rivière, "L'ordre naturel et essentiel des sociétés politiques" p. 543.
- (7) Definitiv.
- (8) vorgeschessen werden.
- (9) money advanced.
- (10) to be expended.
- (11) James Steuart, "Works etc. edited by General Sir James Steuart, his son. Lond. 1801. v. I." p. 274.
- (12) Mehrwerth (surplus value).
- (13) sich verwerthen.
- (14) Th. Corbet, "An Inquiry into the Causes and Modes of the Wealth of Individuals, or the Principles of Trade and Speculation explained. Lond. 1811." p. 5.
- (15) Mac Culloch, "A Dictionary practical etc. of Commerce" Lond. 1847," p. 1058.
- (16) Le commerce est un jeu.
- (17) Pinté, "Traite de la Circulation et du Crédit," Amsterdam, 1771" p. 231.

- (18) Verwertung des Werths.
- (19) Reichtum schlechthin.
- (20) F. Engels, „Umriss zu einer Kritik der Nationalökonomie“ in „Deutsch-Französische Jahrbücher, herausg. v. A. Ruge u. K. Marx, Paris 1844.“ p. 99.
- (21) ὁ ἀληθινὸς πλοῦτος
- (22) ἡ καπηλική
- (23) ποιητικὴ κρημάτων..... διὰ κρημάτων διαβολῆς
- (24) τὸ γὰρ νόμισμα στοικεῖον καὶ πέρας τῆς ἀλλαγῆς ἐστίν
- (25) Aristotels, De Rep. edit. Bekker, lib. I. c. 8 und 9. passim.
- (26) Th. Chalmers, "On Politic. Econ. etc." 2nd edit. Lond. 1832." p. 166.
- (27) Genovesi, Lezioni di Economia Civile (1765). Ausgabe der italienischen Oekonomen v. Custodi, Parte Moderna, t. VIII. p. 139.
- (28) auri sacra fames.
- (29) MacColloch, "The Principles of Pol. Econ. Lond. 1830," p. 179.
- (30) J. B. Say, "Traité d'Écon. Polit. 3 ème éd. Paris 1817," t. I. p. 428.
- (31) Macleod, "The Theory and Practice of Banking, London 1855." v. I. c. 1.
- (32) James Mill, "Elements of Pol. Econ. Lond. 1821," p. 74.
- (33) übergreifendes Subject.
- (34) Identität mit sich selbst.
- (35) Money which begets money.
- (36) Sismondi, "Nouveaux Principes de l'Econ. Polit." t. I. p. 90.

助貨]の意味にして、Scheide (分離、分解)及び Münze (鑄貨、錢)の二語より成る。マルクスは此語を以て貨幣と破壊との兩概念を結びつけたもので、其所に面白味がある。此前後類頁はマルクス一流の文意味を發揮した所である。

- (60) Gral. キリストが最後の晩餐の時用いた玉盃。
 (61) Shakespeare, "Timon of Athens."
 (62) Sophokles, "Antigone."
 (63) Athes, "Deipnos."
 (64) barbarisch einfacher Waarenbesitzer.
 (65) Goldfetsch.
 (66) Dudley North, "Discourses upon Trade. Lond. 1691." p. 22.
 (67) J. St. Mills Evidence, "Reports on Bank Acts 1857," n. 2084.
 (68) Zahlungsmittel.
 (69) Schadewacht=Zinswucher.
 (70) Martin Luther, „An die Pfarrherrn, wider den Wucher zu predigen. Wittenberg 1540.“
 (71) plebejischer Schuldner.
 (72) "An Essay on Credit and the Bankrupt Act." Lond. 1707. p. 2.
 (73) Geldkrise.
 (74) in prosperitätstrunkenem Aufklärungsdünkel.
 (75) John Bellers, "Proposals for raising a College of Industry Lond. 1696." p. 3.
 (76) "The Theory of the Exchanges, the Bank Charter Act of 1814 Lond. 1864." p. 81.
 (77) "The Currency Question Reviewed, a Letter to the Scotch

People. By a Banker in England. Edinburgh 1845" p. 29, 30 passim.

- (78) Kreditwesen.
 (79) Morrison, Dillon & Co.
 (80) "Report from the Select Committee on the Bankacts. July 1858," p. LXXI.
 (81) "An Essay upon Public Credit 3. ed. Lond. 1710" p. 8.
 (82) Boisguillebert, "Dissertation sur la nature des richesses, de l'argent et des tributs." Collection des principaux economistes t. I. "Économistes financiers edit Daire" Paris. 1843. t. I. p. 413, 419, 417.
 (83) John Fullarton, "Regulation of Currencies" 2nd ed. Lond. 1845. p. 86 Nte.
 (84) 一年を五十二週と見て四千萬磅を割る。
 (85) 即ち四分の一年。
 (86) William Petty, "Political Anatomy of Ireland. 1672 edit Lond. 1691." p. 13, 14.
 (87) Reichtum überhaupt (universal wealth).
 (88) Mac Culloch, "The Literature of Political Economy, a classified catalogue Lond. 1845."
 (89) currency principle.
 (90) money of the world.
 (91) N. Barbon, "A Discourse on coining the new money lighter. London 1696." p. 39.
 (92) W. Petty, "Political Anatomy of Ireland" p. 14.

- (25) Mercier de le Rivière, "L'Ordre naturel et essentiel des sociétés politiques," Physiocrates, ed. Daire, II Partie, p. 554.
- (26) Kreislauf.
- (27) Goldchrysalide.
- (28) Waarencirkulation.
- (29) 獨 Umlauf. 英 currency. 佛 cours.
- (30) Kaufmittel.
- (31) Sir Dudley North, "Discourses Upon Trade. Lond. 1691." p. 11—15 passim.
- (32) William Petty, "A Treatise on Taxes and Contributions. London 1667," p. 17.
- (33) Arther young, "Political Arithmetic, Lond. 1774."
- (34) Adam Smith, "Wealth of Nations" 1. IV. ch. 1.
- (35) Jacob Vanderlint, "Money answers all things Lond. 1734," p. 5.
- (36) J. St. Mill, "Principle of Pol. Econ."
- (37) Kars. 露土國境、裏海の東方百メートルの地點にある難攻不落の要塞。1855年土軍はウキリアムス將軍の指揮のもとに此城砦を死守し露軍の占領を免れたが、1877年遂に露軍の手に歸した。
- (38) J. St. Mill, "Some Unsettled Questions of Pol. Econ."
- (39) John Locke, "Some Considerations on the Consequences of the lowering of Interest 1691," Works ed. 1777, Vol. 11, p. 25.
- (40) Münzgestalt.
- (41) The Tower. 初め國王の居城なりしが、後國事犯人の牢獄となり更らに武庫及古遺物の陳列所に充てらる。
- (42) Marke.

- (43) Symbol.
- (44) David Buchanan, "Inquiry into the Taxation and Commercial Policy of Great Britain. Edinburgh, 1844," p. 248, 249.
- (45) Ce n'est que le premier pas qui coûte.
- (46) Staatspapiergeld mit Zwangs-Kurs.
- (47) „Arbeiten der Kaiserlich Russischen Gesandtschaft zu Peking über China. Aus dem Russischen von Dr. K. Abel und F. A. Mecklenburg. Erster Band. Berlin 1858." p. 47. sq.
- (48) Sovereign. 此語は「元首」「主權者」を意味す。そこでマルクスは此一句に註を加へて曰く「これ政治上のものではない。sovereign は磅金貨の名である」と。此語を含む件の引用文、箇所を「主に Sovereign の値打が下がる」と云ふ風に意譯して見ると、マルクスの辛辣な皮肉振りが窺はれる。英譯本は此挿註を省略してゐる。
- (49) H. o. Lords' Committee 1848, n. 429.
- (50) Fullarton, "Regulation of Currencies," 2 ed. London 1845, p. 21.
- (51) objektiv gesellschaftliche Gültigkeit.
- (52) Goldpuppe.
- (53) Schatz.
- (54) Schatzbildner.
- (55) Schatzbildung.
- (56) Jacob Vanderlint, 1. c. p. 95, 96.
- (57) John Bellers, "Essays about the Poor, Manufactures, Trade, Plantations, and Immorality. Lond. 1669." p. 13.
- (58) Verkehr.
- (59) 原文には「經濟上及び道德上の秩序のシャイデミュンツエ」としてある。シャイデミュンツエ (Scheidemünze) は「小錢」「補

- (15) "The East India Trade, a most profitable Trade. London. 1677." p. 4.
- (16) une valeur additionnelle.
- (17) Jean Law „Considérations sur le numéraire et le commerce“ in E Dairé's Edit, der „Economistes Financiers du XIII siècle“ p. 470. (Collection des principaux économistes).
- (18) V. de Forbonnais, "Eléments du Commerce. Nouv. Edit. Leyde, 1766." t. II. p. 143.
- (19) Montesquieu, "Esprit des Lois, Oeuvres. Lond. 1767. t. II." p. 2.
- (20) Le Trosne, "De l'Interet social," p. 910.
- (21) Hegel, „Philosophie des Rechts.“ p. 100.
- (22) 佛國王フキリョブ第六世のこと。
- (23) Pagnini, „Saggio sopra il giusto pregio delle cose. 1751.“ bei Custodi Parte Moderna, t. II.
- (24) natural price.
- (25) William Petty, "A Treatise on Taxes and Contributions. Lond. 1667," p. 31.
- (26) W. Roscher, „Die Grundlagen der Nationalökonomie. 3. Aufl. 1858,“ p. 207—10.
- (27) anatomisch-physiologische Methode der politischen Oekonomie.

第三章

- (1) Baffiusbay. 北亞米利加とグリーンランドとの間を北に延亘する海峡。
- (2) nur vorgestelltes oder ideelles Gold.
- (3) Massstab.

- (4) Maclaren, "History of the Currency. London 1858, p. 16.
- (5) Mass der Werthe (measure of values).
- (6) Massstab der Preise (standard of prices).
- (7) David Urquhart, "Familiar Words."
- (8) Atheneaus, „Deipnosoplistai 1. IV. 49. v. 2. ed. Schweizhäuser, 1802.“
- (9) begriffslos sachliche aber auch einfach gesellschaftliche Form.
- (10) Münzpreis.
- (11) Wm. Petty, "Quantulum cumque concerning Money. To the Lord Marquis of Halifax, 1682".
- (12) Le Trosne, "De l'Interet social," p. 922.
- (13) Cirkulationsmittel.
- (14) Metamorphose der Waaren.
- (15) Wie der Kamm ihnen gewachsen ist.
- (16) Metamorphose—Verwandlung.
- (17) F. Lassalle, „Die Philosophie Herakleits des Dunkeln. Berlin 1858,“ Bd. I. p. 222.
- (18) salto mortale.
- (19) ein naturwüchsiger Produktionsorganismus.
- (20) potentiirtes Glied der gesellschaftlichen Arbeittheilung.
- (21) The course of true love never does run smooth.
- (22) Transsubstantiation.
- (23) Dr. Quesney, "Dialogues sur le Commerce et les Travaux des Artisans. Physiocrates" (Collection des Principaux Economistes). Physiocrates, ed. Daire, I. Partie. 1816." p. 170.
- (24) Maximes Générales.

- (96) regelndes Naturgesetz.
- (97) Friedrich Engels „Umriss zur Kritik der Nationalökonomie,“ in Deutsch-französische Jahrbücher, Herausg. von A. Ruge u. K. Marx, Paris 1844.
- (98) post festum.
- (99) Werkzeug.
- (100) Nutzeffekt.
- (101) Max Wirth. 1822年プレスラウに生れハイデルブルヒ大學に於て法律學及び經濟學を修め、1855年ブルンの統計局長に就任す。其經濟學上の立場は溫和なる保護主義とも言ふべく利潤發生に於ては節欲説を主張し、地代論に於てはリカードに反對してケッペル説を信じた。
- (102) Parallelogramme des Herrn Owen.
- (103) Naturaldienst.
- (104) Naturalleistung.
- (105) ländlich patriarchalische Industrie einer Bauernfamilie.
- (106) Karl Marx. „Zur Kritik etc.“ p. 10.
- (107) in dieser sachlichen Form.
- (108) Naturnotwendigkeit.
- (109) 3tes u. 4tes Buch. 資本論第三卷及餘剩價值學說史に當る。
- (110) Destutt de Tracy.
- (111) Ricardo, „The Principles of Political Economy 5 Ed. London 1821.“ p. 334.
- (112) Ganilh.
- (113) Karl Marx, „Miserè de la Philosophie. Réponse à la philosophie de la misère par M. Proudhon. 1847.“ p. 113.
- (114) Waarendinge.

- (115) „Observations on some verbal disputes in Pol. Econ., particularly relating to value and to supply and demand Lond. 1821.“ p. 16.
- (116) S. Bailey, l. c. p. 165.
- (117) Dogberry, Seacoal. シェークスピア劇『マツチ・アド・アバウト・ナツング』中の人物。

第二章

- (1) Hüter
- (2) Waarenbesitzer.
- (3) 娼婦のこと。
- (4) Maritorne. ドン・キホーテに出る醜惡な下女の名。
- (5) Aristoteles, de Rep. l. l. c. 9.
- (6) gesellschaftlich gültige Aequivalentform.
- (7) der unmittelbare Produktaustausch. 物々交換のことを云ふ。
- (8) Tauschmittel.
- (9) dieselbe gleichförmige Qualität.
- (10) „I metalli.....naturalmente moneta“ Galiani, „Della Moneta.“ in Custodi's Sammlung Parte moderna, t. III. p. 72.
- (11) Verri, „Meditationi sulla Economia politica.“ p. 16.
- (12) „A Discourse of the General Notions of Money, Trade, and Exchange, as they stand in relations to each other. By a merchant. London. 1695.“ p. 7.
- (13) „A Discourse concerning Trade, and that in particular of the East-Indies, etc. London, 1689.“ p. 2.
- (14) Stock.

- (57) Werthsein.
- (58) Werthsein. 「價すること」, 「價值性」。
- (59) Valere (イタリー). Valer (スペイン). Valoir (フランス). 何れも「價する」の意。
- (60) Paris vaut bien une messe! パリは眞に奠祭に價する。
- (61) beziehen.
- (62) Beziehung.
- (63) Produktivkraft.
- (64) reguliren.
- (65) J. Broadhurst, "Political Economy," London. 1842, p. 11 and 14.
- (66) Austauschbarkeit.
- (67) quid pro quo.
- (68) ist schwer.
- (69) hat Gewicht.
- (70) Schwere.
- (71) das Ganze der einfachen werthform.
- (72) Lombard Street 倫敦市の有名なる銀行街。英國金融の中心。弘く銀行金融社會の意に用ひらる。
- (73) F. C. A. Ferrier (sous-inspecteur des douanes), "Du Gouvernement considéré dans ses rapports avec le commerce. Paris 1805." Charles Ganilh, "Des Systèmes de l'Economie. Politique, 2 ème éd. Paris 1821."
- (74) Werthgestalt.
- (75) totale oder entfaltetete Werthform.
- (76) "A Critical Dissertation on the Nature, Measure and Causes of Value; chiefly in reference to the writings of Mr. Ricardo

- and his Followers. By the Author of Essays on the Formation etc. of Opinions. London 1825" p. 39.
- (77) Werthkoerper.
- (78) Werthgegenstaendlichkeit.
- (79) allgemeine gesellschaftliche Verpuppung aller menschlichen Arbeit.
- (80) aufprägen.
- (81) Kleinbuerger.
- (82) allgemein gesellschaftliche Gültigkeit.
- (83) in engeren oder weiteren Kreisen.
- (84) Preisform.
- (85) Fetischcharakter der Waare.
- (86) ein sinnlich übersinnliches Ding.
- (87) Morgen. 獨逸に於ける土地面積の名、多くは 25.2 アールに當る。
- (88) Tagwerk. Tagwanne (jurnale 或は journals, terra jurnalıs 或は diornalis) 一日の仕事の意。
- (89) Mannwerk. 男一人の仕事の意。
- (90) Mannskraft. 男一人の力の意。
- (91) Mannsmaad, Mannshauet. 男一人の收穫量の意。
- (92) Mark. チュートン種族の村落共有地。
- (93) Georg Ludwig von Maurer, „Einleitung zur Geschichte der Mark-, Hof-, u. s. w. Verfassung," München. 1859, p. 129. sq.
- (94) quid pro quo.
- (95) Galiani "Della moneta" p. 220 v. III. von Custod's Sammlung der „Scrittore Classici Italiani di Economia Ralitica," Parte Moderna Milano 1801.

- (13) Waarenwerth.
- (14) Arbeitszeit.
- (15) Durchschnittsexemplar. 平均的
- (16) "Some Thoughts on the Interest of Money in general, and particularly in the Public Funds etc." Lond., p. 36.
- (17) Le Trosne l. c. p. 893.
- (18) K. Marx, l. c. p. 6.
- (19) constan.
- (20) Eschwege.
- (21) für andere.
- (22) Zinskorn.
- (23) Zehntkorn.
- (24) nützliche Arbeit.
- (25) eine bestimmte zweckmässig produktive Thätigkeit.
- (26) Stoffwechsel zwischen Mensch und Natur.
- (27) Naturnotwendigkeit.
- (28) Pietro Verri, "Meditazioni sulla Economia Politica" (zuerst gedruckt 1773) in der Ausgabe der italienischen Oekonomen von Custodi, Parte Moderna, t. XV, p. 22.
- (29) menschliche Arbeit schlechthin.
- (30) einfache Durchschnittsarbeit.
- (31) komplicirtere Arbeit.
- (32) potenzirte.
- (33) multiplicirte.
- (34) Hegel, „Philosophie des Rechts“, Berlin 1840, p. 250, §190.
- (35) in besonderer zweckbestimmter Form.

- (36) A. Smith, "Wealth of Nations" b. I. ch. V.
- (37) normale Lebensbetätigung.
- (38) Werthträger.
- (39) Naturalform.
- (40) Werthform.
- (41) Werthgegenständlichkeit.
- (42) Dame Quickly. シェークスピアの『メリイ・ワイヴス・オヴ・キング・ア』に出るカイウス博士の女中で洗濯、料理、裁縫、婚姻、媒酌、何んでも爲ると云ふ至極要領を得た調法な女。
- (43) Werthding.
- (44) Geldform.
- (45) Werthausdruck.
- (46) relative Werthform.
- (47) Aequivalentform.
- (48) Moment (英譯 element).
- (49) S. Bailey, "Money and its Vicissitudes." London 1837. p. 11.
- (50) Existenzform.
- (51) Werthsein. 『價すること』と譯した所もある。
- (52) Werthabstraktion.
- (53) Werthcharakter.
- (54) The Works of B. Franklin etc., edited by Sparks. Boston, 1836, vol. II. p. 297.
- (55) Gegenständlichkeit.
- (56) 此説明、原文では A と B とを取違へてゐるやうに思はれる。英譯本では茲に譯した通りになつて居る。予は意味の上から英譯本の方を正當と信じ、暫くそれに依ることとした。

資本論第一卷譯註

第一篇

第一章

- (1) Waare.
- (2) Karl Marx, „Zur Kritik der politischen Oekonomie. Berlin, 1859.“ p. 4.
- (3) Nicolas Barbon, „A Discourse on coining the new money lighter, in answer to Mr. Locke's Considerations etc. London 1696.“ p. 2, 3.
- (4) N. Barbon, l. c. p. 16.
- (5) Gebrauchswertli.
- (6) John Locke, „Some Considerations on the Consequences of the lowering of Interest. 1691.“, Works. ed. London 1777 Vol. II. p. 28.
- (7) Tauschwert.
- (8) stofflicher Träger.
- (9) ein der Waare innerlicher, immanenter Tauschwert (valeur intrinsèque).
- (10) Le Trosne, „De l'Intérêt Social,“ Physiocrates. ed Daire. Paris 1846. p. 889.
- (11) One sort of wares are as good as another, if the value be equal. There is no difference or distinction in things of equal value..... One hundred pounds worth of lead or iron, is of as great a value as one hundred pounds worth of silver and gold.” (N. Barbon l. c. p. 53 u. 7).
- (12) Werth.

資本論第一卷總目次

校註者題言

譯者序

原著者第一版序

原著者第二版序

編輯者第三版序

編輯者第四版序

第一卷 資本の生産行程

第一篇 商品及び貨幣

第一章 商品

總目次

(第一册) 一三六

- (一) 商品の二因子、使用価値及び価値(価値の實體、価値の大小)……………一
- (二) 商品に體現したる労働の二重性質……………二
- (三) 価値形態、即ち交換価値……………二七
 - A 單純、個別、或は偶生の価値形態……………二九
 - (1) 價值表章の兩極。相對的價值形態と等價形態……………三〇
 - (2) 相對的價值形態……………三三
 - a 相對的價值形態の内容……………三三
 - b 相對的價值形態の分量的限定性……………三四
 - (3) 等價形態……………三五
 - (4) 單純價值形態の總體……………三五
- B 總體的、若しくは擴大したる價值形態……………三六
 - (1) 擴大したる相對的價值形態……………三六
 - (2) 特殊の等價形態……………三七
 - (3) 總體的、若しくは擴大したる價值形態の諸缺點……………三八
- C 一般的價值形態……………三九
 - (1) 價值形態の變化したる性質……………三九
 - (2) 相對的價值形態と等價形態との發展關係……………四〇
 - (3) 一般的價值形態より貨幣形態への推移……………四一
- D 貨幣形態……………四二

(四) 商品の藝術性及び其の秘密……………四六

第二章 交換行程……………一〇〇

第三章 貨幣即ち商品流通……………一三三

- (1) 價值の尺度(價格—價格の標準—價格の一般的騰落—貨幣の計算名稱、計算貨幣—價值の大小と價格との量的不一致—其實的の不一致—價格は商品の單なる觀念的の價值形態)……………一三三
- (2) 流通要具……………一三四
 - a 商品の形態(貨幣、W-G-W' 形態、W-G-W 形態、G-W—商品の總體形—商品流通—商品流通と生産物の直接交換即ち物々交換との差異)……………一三四
 - b 貨幣の通用(商品形態と貨幣通用—貨幣の二重職位—通用貨幣の分量—通用の速度—通用の疏通と停滯—通用貨幣の分量を決定する諸因子)……………一三五
 - c 鑄貨、價值表章(鑄貨と地金、鑄貨の磨滅—價值表章—銀貨及び銅貨—紙幣—強制通用力を有する紙幣流通の法則)……………一三五
- (3) 貨幣……………一三五
 - a 貨幣の退廢……………一三五
 - b 支拂要具……………一三六

。 世界貨幣……………三三

第二篇 貨幣の資本化……………二九—二九六

第四章 貨幣の資本化……………二二九

- (一) 資本の一般公式……………三三九
- (二) 一般的公式の矛盾……………三三九
- (三) 労働力の買買(自由労働者)——労働力の價值——「労働力」なる商品の特長なる性質……………三七四

第三篇 絶對的餘剩價値の生産……………二九七—五九〇

第五章 労働行程及び價値増殖行程……………二九七

- (一) 労働行程(労働対象、原料及び労働要具——生産機關——生産的消費——資本家の労働力消費行程としての労働行程)……………三二七
- (二) 價値増殖行程(労働力の價値と、労働行程に於ける其價値増殖とは大きを異にす——價値増殖行程資本の創生)……………三三三

第六章 不變資本及び可變資本……………三四四

第七章 餘剩價値の率……………三六九

- (一) 労働力の搾取程度……………三六九
- (二) 生産物價値の、生産物の比例分に於ける表現……………三六九
- (三) シーニョアの『最終時間』説……………三七三
- (四) 餘剩生産物……………三七八

第八章 労働日……………四〇八

- (一) 労働日の限界……………四〇八
- (二) 餘剩労働に對する熱求、工場主とボヤール……………四一八
- (三) 労働搾取に對する法律上の制限なき英國諸産業(レース製造業——製陶業——燐寸製造業——壁紙製造業——パン焼業——鐵道經營——婦人服製造業——鍛冶業)……………四三六
- (四) 晝間労働及び夜間労働。交代制度(冶金及び金屬工業)……………四三七
- (五) 標準労働日に就ての闘争。十四世紀中葉より十七世紀終末に至る労働日延長の強制法律(労働者の健康及び壽命に對する資本の無關心——英吉利の労働者諸法規——十七世紀大工業時代に至る迄の労働時間制限)……………四三七
- (六) 標準労働日に就ての闘争。労働時間の強制的法定制限。一八三三年より同六四年に至る英吉利の工場立法(一八三三年

の條例——一八四四年の條例——一八四七年の條例——一八五〇年の條例——絹物工場——染物工場——漂白工場）……………二七
 (七) 標準労働日に就ての闘争。英國工場法が他諸國に及ぼせる反作用……………二六

第九章 餘剰價値の率と量……………五七三

第四篇 相對的餘剰價値の生産……………(第二冊) 一四〇〇

第十章 相對的餘剰價値の概念……………一

第十一章 協業……………二

(資本制生産の出發點、ツンプト的産業との其量的差異——社會的平均労働——生産機關の節約——協業的労働の社會的生産力——協業の初期的諸形態——協業の資本制的形態)……………

第十二章 分業及マニユファクチュア……………五〇

- (一) マニユファクチュアの二重起源……………五〇
- (二) 部分労働者及び其道具……………五六
- (三) マニユファクチュアの二箇の基本形態——混成的マニユファクチュア及有機的マニユファクチュア……………六三

- (四) マニユファクチュア内に於ける分業と社會内に於ける分業……………六〇
- (五) マニユファクチュアの資本制的性質……………六三

第十三章 機械及び大工業……………一一九

- (一) 機械の發達……………一二九
- (二) 生産物への機械の價値移轉……………一三〇
- (三) 労働者に及ぼす機械的經營の第一次的影響……………一三二
 - a 資本の補助的勞動力占有、婦人労働及び兒童労働……………一三二
 - b 労働日の延長……………一三三
 - c 労働の並率増進……………一三六
- (四) 工場……………一三〇
- (五) 労働者と機械との抗争……………一三八
- (六) 機械に驅逐せられたる労働者に關する報價說……………一三九
- (七) 機械的經營の發達に伴ふ労働者の反撥及び吸引、木綿工業の恐慌……………一四二
- (八) 大工業に依るマニユファクチュア、手工業、及び家内労働の革命……………一四三
 - a 手工業及び分業に基く協業の撤廢……………一四三
 - b マニユファクチュア及び家内労働に及ぼす工場組織の反應作用……………一四七
 - c 近世的マニユファクチュア……………一五〇

d 近世的家内労働(レース製造、麥藁細工)……………三六

e 近世的マニユファクチュア及び家内労働の、大工業への推移。之等の經營法に對する工場法の適用より來る此革命の促進(ミシン機械)……………三四

(九) 工場法(保健及び教育に關する條項)。英吉利に於ける其普遍化(鑛山業)……………三四

(十) 大工業と農業……………三六

第五篇 絶對的並に相對的餘剩價値の生産……………四〇一—四五三

第十四章 絶對的並に相對的餘剩價値……………四〇一

第十五章 労働力の價格と餘剩價値との大小變化……………四〇三

(I) 労働日の大小及労働能率不變(一定)にして、労働生産力可變なる場合……………四〇三

(II) 労働日及び労働生産力不變にして、労働能率可變なる場合……………四〇三

(III) 労働生産力及能率不變にして、労働日可變なる場合……………四〇三

(IV) 労働日並に労働の生産力及び能率が同時に可變なる場合……………四〇六

第十六章 餘剩價値率の種々なる公式……………四〇五

第六篇 労働銀……………四五三—五二四

第十七章 労働力の價値(又は價格)の労働化……………四五三

第十八章 時間賃銀……………四六九

第十九章 請負賃銀……………四八五

第二十章 労働銀の國民的差異……………五〇三

第七篇 資本の蓄積行程……………(第三册) 一—四三六

第二十一章 單純なる再生産……………四

(資本の附屬物としての労働者階級、資本制生産行程によつて再生産さるゝ資本金と労働者との關係)……………四

第二十二章 餘剩價値の資本化……………三三

(一) 擴大したる規模に於ける資本制生産行程。商品生産の所有權法則の資本制占有法則への轉化……………三三

(二) 擴大したる規模に於ける再生産に關する經濟學の意見……………三一

(三) 餘剩價値の、資本及び收入への分割。節慾學說……………三〇

- (四) 餘剩價値の、資本及び收入への比例的分割より獨立して、蓄積の範圍を決定する諸事情——勞働力搾取の程度、勞働の生産力、充用資本と消費資本との差額の増大、前貸資本の大小……………九五
- (五) 謂ゆる勞働基金……………九五

第二十三章 資本制蓄積の一般法則……………101

- (一) 資本の組成に變化なき時に於ける、蓄積に伴ふ勞働力の需要増加……………101
- (二) 蓄積及び其れに伴ふ集積の進行中に生ずる、可變資本部分の相對的減少……………103
- (三) 相對的過剩人口、換言すれば産業豫備軍の果進的生产……………105
- (四) 相對的過剩人口の種々なる存在形態。資本制蓄積の一般法則……………107
- (五) 資本制蓄積の一般的法則の例解……………107
 - a 一八四六年より一八六六年に至る英吉利……………107
 - b 英國産業勞働者階級中の薄給部分(榮養狀態——住屋狀態——倫敦——ニューキャッスル・アボン・タイン——ブラッドフォード——プリストル)……………108
 - c 浮浪勞働者(住屋事情——鐵道勞働者——炭坑及び其他の鑛山勞働者)……………108
 - d 勞働者階級中の最厚給部分に及ばず恐慌の影響(倫敦東部に……………108

第二十四章 謂ゆる本來的蓄積……………110

- (一) 本來的蓄積の秘密……………110
- (二) 英吉利の農民に對する土地收奪(十五世紀の七十年代以後及び十六世紀初期の數十年代に於ける耕地の牧場化——宗教改革、及び寺領の奪取——封建的所有のブルジョアの所有化——王政復古と『光輝ある革命』——國有地の奪取——共同地及び其盜掠——蘇格蘭高地に於ける所有地の解放、耕地の羊牧場化、及び羊牧場の擴張化)……………116
- (三) 十五世紀末以降行はれたる、被收奪者に對する殘虐なる立法。勞銀低減の法律……………120
- (四) 資本家の小作農業者の發生……………125
- (五) 農業革命が工業に及ぼせる反作用。工業資本に對する國內市場の造出……………126
- (六) 工業資本家の發生(植民制度——國債制度——近世租稅制度及び保護制度——大工業の初期に於ける兒童掠奪)……………128

資本論 第一卷 第三冊

一一

(七) 資本制蓄積の史的傾向……………四〇八

第二十五章 近世植民説……………四一五

譯註……………一五六

資本論第一卷總目次終

大正十年二月十五日印
大正十年二月二十日發
行刷

マルクス全集第三冊

資本論第一卷(三)定價六圓九十錢

翻譯者 高 島 素 之

發行者 東京市京橋區桶町十五番地

株式會社 大 鏡 閣

代表者 面 家 莊 佑

印刷者 東京市京橋區西紺屋町二十七番地

佐 久 間 衡 治

印刷所 東京市京橋區西紺屋町二十七番地

株式會社 英 舍



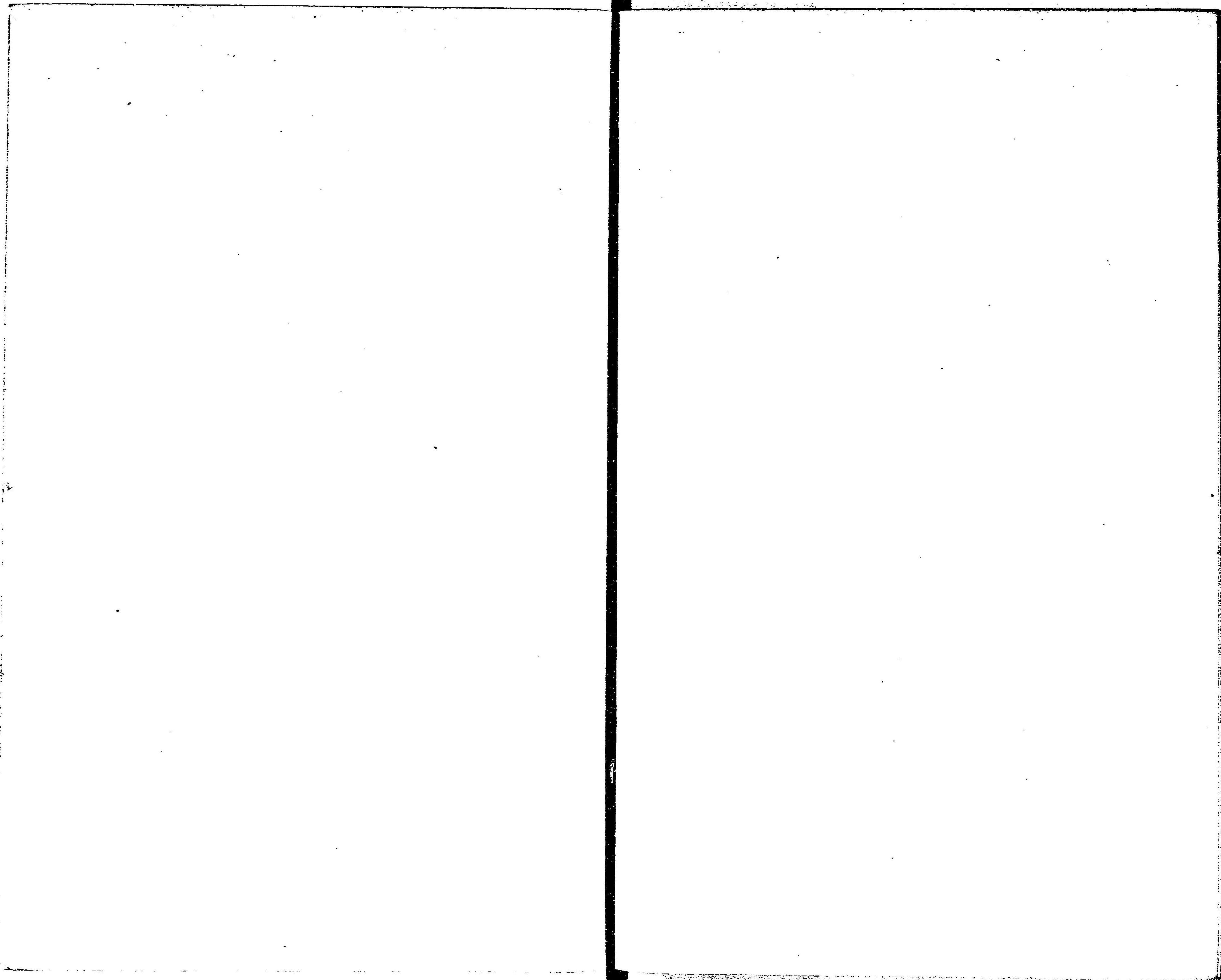
發行所

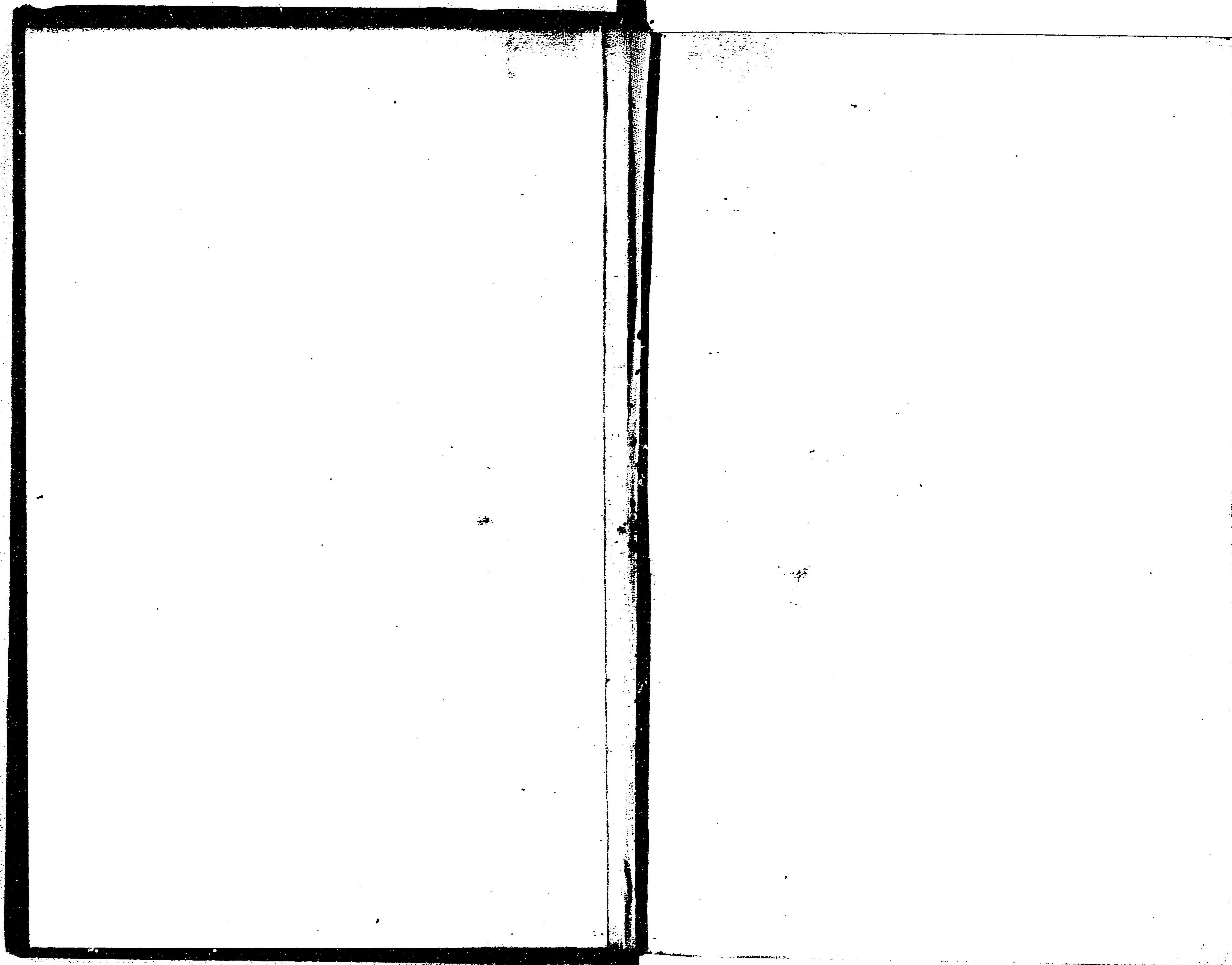
東京市京橋區桶町
大阪市南區三休橋

株式會社

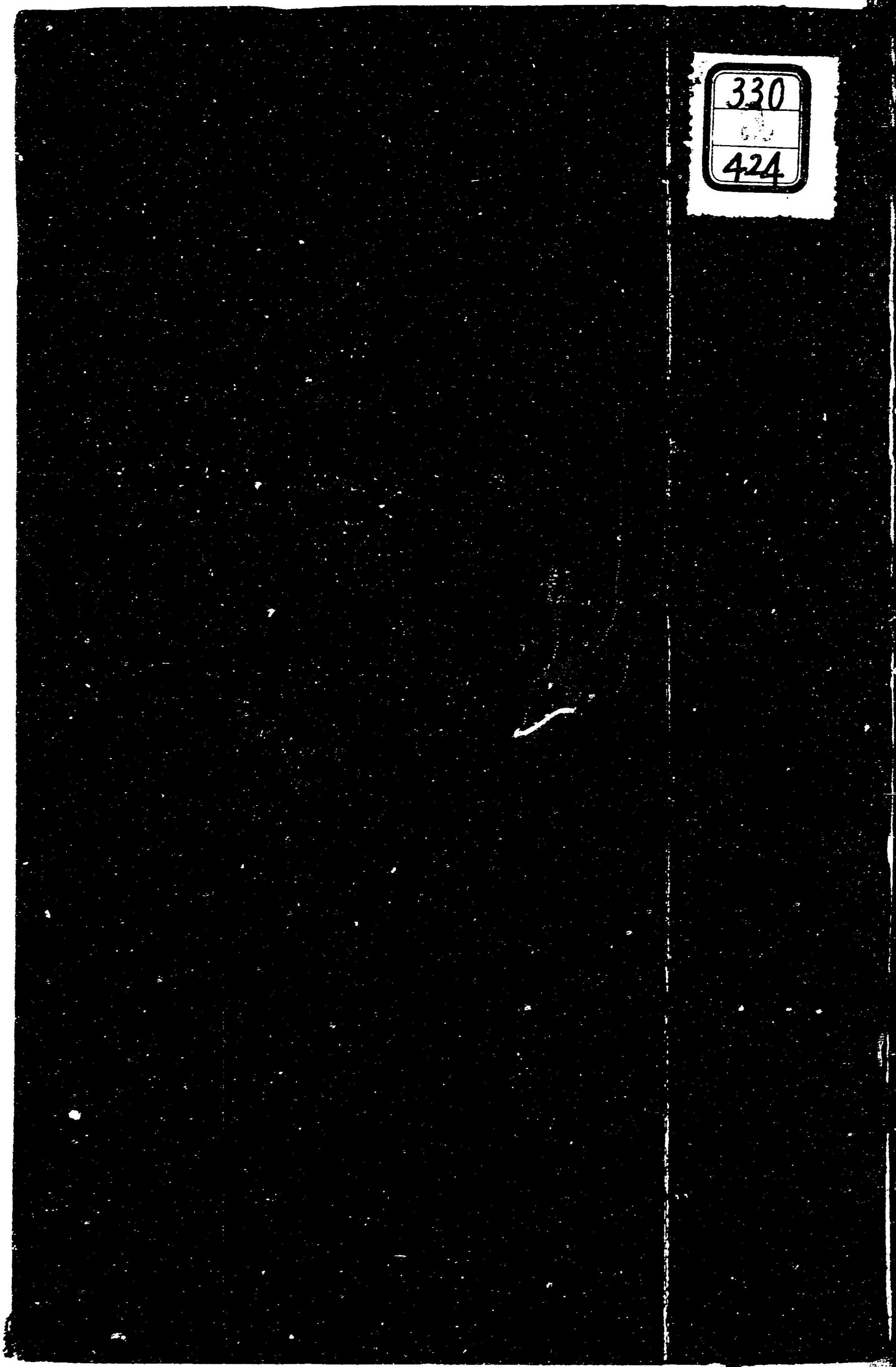
大 鏡 閣

振替口座 東京三三六一五八番
大阪二七一五五番





終



330
424
424

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

始



